

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2011-215148

(P2011-215148A)

(43) 公開日 平成23年10月27日(2011.10.27)

(51) Int.Cl.

G 2 1 B 1/00 (2006.01)

F 1

G 2 1 B 1/00

Z

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 25 O L 公開請求 (全 57 頁)

(21) 出願番号 特願2011-92821 (P2011-92821)

(22) 出願日 平成23年4月19日 (2011.4.19)

(71) 出願人 502219359

樽野 和夫

北海道上川郡美瑛町美馬牛北3丁目2番9号

(72) 発明者 樽野和夫

北海道上川郡美瑛町美馬牛北3丁目2番9号

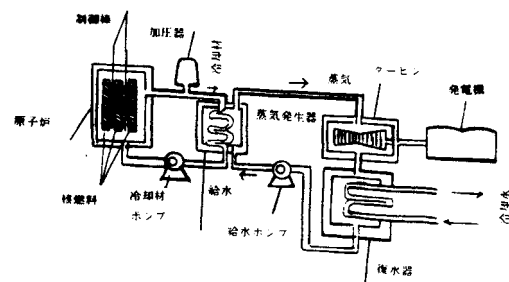
(54) 【発明の名称】 電子熱核燃料原石核融合発電と放射能廃棄物処理方法。コメント2008年6月19日(木) P M 14時17分34秒薄曇りのまま美馬牛市街地先程は見かけぬ客人の鳥が来ていた明日給料日

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】放射能廃棄物を少なくする発電方法を提供する。

【解決手段】原子力廃棄物を少なくする為に、電子熱核燃料核融合臨界温度調整を電子熱制御で行い、圧縮酸素高温圧力装置を使用して蒸気タービン間での距離をスクリュ管使用によって、蒸気スピードを増してタービンを回転させて、圧電素子磁石内蔵のダイナモ装置を回転作動発電出来る原子力発電で有り、放射能線と液体シリコン合成の人工ダイヤ筒パネルによって、微量放射線の放出の無いパネルカメラの安全な利用が確立出来た放射能線利用方法。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本先知的所有財産の先発明は核燃料原石を粉にしないで、核燃料原石そのままを大型の電子発生装置の電子熱による核融合臨界温度調整及び核融合臨界温度電子熱制御を行った加圧蒸気タービンダイナモ発電方式のシステム原子力発電装置。

【請求項 2】

本先知的所有財産の先発明の原子力発電のダイナモ装置は、通常ダイナモ装置の中心部に圧電素子磁石を内蔵させたダイナモ発電装置の圧電素子内蔵ダイナモ装置を、積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項 3】

本先知的所有財産の先発明の原子力発電所で発電された生の電気中に含まれる電気抵抗を取り除くために圧電素子磁石装置を使用した電気中の電気抵抗取り除き装置として、先発明考案してあった圧電素子4電子磁気分割装置を使用した電気中の電気抵抗電気を取り除く事が出来る装置を、積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム。

【請求項 4】

本先知的所有財産の先発明の原子力発電所などの発電された電気中に含まれて入る電気抵抗電気を再び圧電素子4電子磁気分割装置に電気を通して、更に圧電素子4分割装置に行くまでの銅線にダイオード熱発電体を取り付けた熱抵抗電気の熱電気再処理発電装置を取り付けた熱電気リサイクル発電システムを積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項 5】

本先知的所有財産の先発明の原子力廃棄物地下再処理場及び放射線水及び放射線内蔵パネル貯蔵庫などの放射線漏れの処理を行う為の原子力廃棄物放射能飛散の全自動飛散放射線処理GPSロボットシステムを、積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項 6】

本先知的所有財産の先発明の原子力廃棄物専用の取り付け型ゴム底のアルミニウム補強クッションテープを巻いたドラム官を地下室内GPS機械ロボットで全自動回収及び移動及び全自動カメラ保管管理出来る原子力廃棄物全自動ロボット処理とロボット移動出来るシステムを積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

コメント

2008年6月19日(木) 昼PM12時19分47秒 昼飯の時間のため、一時休憩とする美馬牛カンキチ。

2008年6月19日(木) 昼PM12時41分13秒 残りカレー終了再び美馬牛カンキチ書き始める。

【請求項 7】

本先知的所有財産の先発明の原子力廃棄物貯蔵施設の放射能漏れ事故対応策として6段階放射能エア-放射能除去装置として、エア-ダクトモーターファン吸収処理官に、複数の噴水カーテン装置を設けて更に放射能汚染水を貯蔵するタンクに空気中に放射能がなくなるまで、つまり放射能センサーの反応がなくなるまで、空気全自動洗浄を行う放射能エア-全自動除去システムを積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項 8】

本先知的所有財産の先発明の原子力廃棄物を収納するドラム官は、アルミニウムと亜鉛の合金を使用して、ドラム官は円錐形とは少し異なりアルミニウム補強クッションテープを巻くため、ドラム官中央が少し狭まっていて、アルミニウム補強クッションテープを巻く構造になっている原子力廃棄物貯蔵官を積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項 9】

本先知的所有財産の先発明の原子力廃棄物を収納するドラム官底は、ゴム敷き蓋型ナット式構造になっているため、ドラム官の地盤衝撃を押さえて、ドラム官蓋構造は、ドラム官本体に吊り金具2つが取り付けられる構造で有り、原子力廃棄物を入れる際、こぼしたり、取り扱い不便なため、大きなナット式蓋構造とし、ドラム官底のゴムナット敷き蓋をドラ

10

20

30

40

50

ム

官上蓋にも後付けで地震振れ防止対策として被せる構造になっている装置を積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項10】

本先知的所有財産の先発明は、原子力発電で発電された電気を人口ダイヤ絶縁電気カット装置によって、電気に無理を欠けずに電気減圧出来る電気減圧装置を積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

【請求項11】

本先知的所有財産の先発明は、原子力廃棄物の削減努力として、放射能の再利用方法として、レントゲンカメラの超小型化に基ずいた、人口ダイヤ平板筒パネルに放射能液体シリコン合成物質を閉じ込めた透明の放射線人口ダイヤ平板筒パネル装置の超小型レントゲンデジタル及びノーマルカメラ等によって、医療施設まで、行かなくてもレントゲン写真検査が、放射能飛散なしで出来る人口ダイヤ平板筒液体シリコン合成放射能線パネル装置を、積載内蔵した請求項1記載の原子力発電システム装置。

10

【請求項12】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、2011年3月の東北地震によって、福島県原子力発電所の地震破壊を、受けて、原子力発電所自体を、守る為に、原子力発電所の地下に、コロ免振装置の電磁石反発によって、原子力施設の建物一つを、電磁石反発技術によって、原子力発電所建物と原子力発電装置全体を、地盤基礎から数ミリメートル単位の幅によって、原子力発電所の原子力発電装置全体を、電磁石の反撥力によって施設建物全体を、浮かして地震災害から原子力施設を、守る事の出来る装置を積載内蔵した請求項1記載の原子力システム装置。

20

【請求項13】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、強化超太スプリングに圧電素子磁石体粒子入りビニールを内蔵した免振横揺れ吸収金属スプリングを積載内蔵して、更に、免振横揺れ支え免振杭内蔵のコンクリート立方体を、積載内蔵した請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項14】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、万が一に原子力施設が、崩壊した場合、放射線を、原子力施設外に出さない手段として、仮設防護ガラスファイバー組立枠を、超大型クレーンで、四角桁状の二重枠を、クレーンで、吊り上げれる構造にした放射線防護パネルを、設置した後、二重枠の四角桁の間に酸化鉄または、鉄粉入りプラスチック溶液を、二重の四角桁枠内に流し込んで、四角桁全体を、地面にスクリュー杭を、設置して四角桁枠を、ボルトナット止めする事によって、原子力施設全体の放射線漏れを、少なくした後付け放射線防護パネルを、積載内蔵した請求項1記載の原子力システム装置。

30

【請求項15】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、万が一に原子力施設が、崩壊した場合、原子力施設復旧作業員の、放射線被爆を少なくする為の、作業員放射線水防護仮設足場超薄ステンレス板内蔵アルミニウム板は、地盤調整ゴムと地盤高調整金具と放射線水吸引水中ポンプ継ぎ官を取り付けた構造の装置を、準備した請求項1記載の原子力システム装置。

40

【請求項16】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、万が一に原子力施設が、崩壊した場合、原子力施設復旧作業員の放射線被爆を少なくする為の、通常のビニールゴム長靴より、放射線被爆を、少なく出来る超薄アルミニウム板を、長靴のゴムと綿入りゴムの間に内蔵積載して、更に情報を、随時外部連絡出来るアンテナライトカメラ充電電池を、積載内蔵した請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項17】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、万が一に原子力施設が、崩壊した場合、原子力施設復旧作業員の放射線被爆を少なくする為の、放射線四角形状の防護板に、固定ヒモ

50

を取り付けた構造の浮遊用の発泡ウレタン板と超薄アルミニウムステンレス板を、内蔵した水に浮く放射線防護板は、連結出来る構造を有した放射線防護板を、積載内蔵した請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項 1 8】

本追加の著作権先技術優先権主張の発明は、放射線の廃棄物の熱を、下げる為の、鉄ドラム官に錆び止めのアルミニウム板を張り付けた構造のドラム官に冷却機能の有る固形窒素粒子を、ドラム官のアルミニウム金属とアルミニウム金属の間に冷却材を、内蔵積載した熱放出の有る放射線廃棄物を、貯蓄出来る冷却機能付きドラム官を、準備した請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項 1 9】

本発明の、電気電子熱火力発電機は、日本国の推進する二酸化炭素排出ゼロと無害無給油技術で有る、水素と酸素の瞬間吸収発電物質の液体マグネシウムを使った水発電機の改良型の、発電物質を水物質から、軽水素酸素水を水発電機に積載内蔵する事で、軽水素トリチウム電子と酸素の常温気化物質を、水素と酸素の瞬間吸収発電スピードより、速い酸素と水素の発電物質とする為に、水素中の重水素ブルトニウムを取り除いた軽水素と酸素のみの水を、水発電機の別名の循環燃料電池発電機の発電物質とした国の全額借金返済と都道府県市町村区的全額借金返済を目的とした最終的には弱者国民一人一人の財団設立の本人の意思に基づく為の無期限永遠の著作権を文部科学省と特許庁に請求する為の請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項 2 0】

本発明の、原子炉及び原子力発電所等のコンクリートビル建屋に積載内蔵するコロ電磁石反発免振装置は、コロ免振の欠点とゴム免振の欠点とゴムと鉄の交互の合わせた免振の欠点を、永遠に補う事を目的としたコロ電磁石反発免振装置は、複数の円柱コロ装置を、電磁石コイルだけの入った永久磁石に変えコロ円柱の上下の鋼鉄板を、銅筒官コイル配線内蔵の電磁石板構造にする事と複数のコロ電磁石反発免振装置を、左右の揺れ固定する複数金具を取り付ける事で、重量物建屋の縦揺れを、吸収する免振杭付きの構造として、左右の揺れを、吸収する為の、免振支えコンクリートと免振横揺れ吸収スプリングと免振横揺れ吸収の圧電素子磁石体粒子内蔵の強化ビニールを内蔵積載する事で、地震によるコンクリート建屋の横揺れを、吸収する装置と地震時でも、半永久に電気を供給出来る循環型の燃料電池別名の水発電機を設置積載内蔵する事によって、アンテナ地震計連絡等の地震時に、原子力設備建屋全体を浮かす事で、マグニチュード9以上の地震でも、耐える事の出来る免振装置を内蔵した請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項 2 1】

本発明の、放射線水を真水と放射線水に分ける装置は、連続して半永久に高出力発電出来る自動電池と超小型の高出力モーターを使用積載した遠心分離機と複数針穴形状の円盤の放射線区切り板と穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成調整窒素マグネシウムパネルを取り付ける事で、気化した常温気化水素酸素水と放射線を、電動仕切り弁の区切り弁と穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成調整窒素マグネシウムパネルに、放射線入りの気化酸素水素水を、遠心分離気化吸収させて、発電させる事によって、放射線を、冷却合成調整窒素マグネシウムパネルに内蔵させると同時に水だけを落下させる事によって、放射線入りの穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成窒素マグネシウムパネルに内蔵下放射線を、電動仕切り弁を閉じて、遠心分離する事で、穴あき圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成窒素マグネシウムパネルから放射線を、分離させて、濃厚度放射線水室に電動仕切り弁付きのスクリー官を通じて、放射の分離出来る2011年4月10日特許技術訂正の放射線水を、放射線と水に分ける装置を持ち運び可能な超小型にした放射線水放射線分離発電装置を積載した請求項1記載の原子力システム装置。

【請求項 2 2】

本発明の、放射線水を真水と放射線水に分ける装置は、連続して半永久に高出力発電出来る自動電池と超小型の高出力モーターを使用積載した遠心分離機と複数針穴形状の円盤の放射線区切り板と穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成調整窒素水銀パネルを取り付

10

20

30

40

50

ける事で、気化した常温気化水素酸素水と放射線を、電動仕切り弁の区切り弁と穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成調整室素水銀パネルに、放射線入りの気化酸素水素水を、遠心分離気化吸収させて、発電させる事によって、放射線を、冷却合成調整室素水銀パネルに内蔵させると同時に水だけを落下させる事によって、放射線入りの穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成室素水銀パネルに内蔵下放射線を、電動仕切り弁を閉じて、遠心分離する事で、穴あき圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成室素水銀パネルから放射線を、分離させて、濃厚度放射線水室に電動仕切り弁付きのスクリー官を通じて、放射の分離出来る2011年4月10日特許技術訂正の放射線水を、放射線と水に分ける装置を持ち運び可能な超小型にした放射線水放射線分離発電装置を積載した請求項1記載の原子力システム装置。

10

【請求項23】

本発明の、放射線水を真水と放射線水に分ける装置は、連続して半永久に高出力発電出来る自動電池と超小型の高出力モーターを使用積載した遠心分離機と複数針穴形状の円盤の放射線区切り板と放射線を一時貯蔵出来る炭素以外のケイ素ヨウ素等のパネルを取り付ける事で、気化した常温気化水素酸素水と放射線を、電動仕切り弁の区切り弁と穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成調整室素水銀パネルに、放射線入りの気化酸素水素水を、遠心分離気化吸収させる事によって、放射線を、ケイ素ヨウ素等に内蔵させると同時に水だけを落下させる事によって、放射線入りのケイ素ヨウ素パネルに内蔵して遠心分離機を使って放射線を、分離させて、濃厚度放射線水室に電動仕切り弁付きのスクリー官を通じて、放射の分離出来る2011年4月10日特許技術訂正の放射線水を、放射線と水に分ける装置を持ち運び可能な超小型にした放射線水放射線分離装置を積載した請求項1記載の原子力システム装置。

20

【請求項24】

本発明の、万が一の原子力事故の破壊処理をする場合、放射線除去作業と伴って、作業する人型ロボットは、無害無給油の循環型燃料電池発電機の別名の水発電機を積載し、高出力レール2連内コイルモーターをロボットの制御モーターとして、積載内蔵した作業インプット式の発光膜カラーパネルを使った全自動のカラーライト発光ラインカメラ焦点距離の全自動ロボットデータ多層そうカードシステム認識して、放射線内蔵パネルのサモーカーメラと金属認識センサーカメラと別途補助リモコン回路システムを備えた全自動人型ロボットを積載した請求項1記載の原子力システム装置。

30

【請求項25】

本発明の、放射線水を真水と放射線水に分ける装置は、連続して半永久に高出力発電出来る自動電池と超小型の高出力モーターを使用積載した遠心分離機と複数針穴形状の円盤の放射線区切り板と放射線を一時貯蔵出来る炭素以外のケイ素ヨウ素等のパネルを取り付ける事で、気化した常温気化水素酸素水と放射線を、電動仕切り弁の区切り弁と穴空き圧電素子磁石体粒子内蔵の冷却合成調整室素水銀パネルに、放射線入りのシリコン気化酸素水素水を、遠心分離気化吸収させる事によって、放射線を、ケイ素ヨウ素等にシリコン放射線として内蔵吸収させると同時に水だけを落下させる事によって、放射線入りのケイ素ヨウ素パネルにシリコン内蔵して遠心分離機を使って放射線を、分離させて、濃厚度放射線水室に電動仕切り弁付きのスクリー官を通じて、放射の分離出来る2011年4月10日特許技術訂正の放射線水を、放射線と水に分ける装置を持ち運び可能な超小型にした放射線水放射線分離装置を積載した請求項1記載の原子力システム装置。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本知的所有財産の先発明は、電子熱核燃料原石核融合発電と放射能廃棄物処理方法に関する技術説明。

【0002】

2011年3月上旬の東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によつての福島原子力発電所の原子力施設崩壊後の処理技術説明。

50

【背景技術】

【0003】

従来の原子力発電技術は、核燃料原石を粉にしてモーター回転原子炉核燃料摩擦熱電気熱発電原子炉で有ったが、日本の活断層地震によって、原子炉炉心複数歯車ミッション金属の破損事故などが多く起こり日本国民に原子炉放射能漏れ事故の危険感を取り除く事が、出来ない地震対応の原子力発電が確立されてなかった。

【0004】

以下図1~図9に基づいて過去の地震対応出来ていない原子力発電と本先発明の地震対応してある原子力発電の違いを図1~図9に基づいて説明する。

図1に於いては、現在まで使用されて入る原子炉核燃料加圧蒸気タービンダイナモ回転発電機の図で有る。(例えば図説電気・電子用語事典・発行所実教出版株式会社の図説参照。)。

10

【0005】

図2に於いて、図1図との違いは、原子炉の核燃料の核融合の臨界温度まで、持って行くための核燃料物質が原石と粉の違いは、住友の原子力ウラン物質放射能もれ事故によってウランは、粉にして使用しているのが、テレビ放映で判明したのであるが、今までの核燃料核融合臨界温度までは、時間を掛けてゆっり、モータミッション原子炉回転核燃料摩擦熱融

合しなければならない事実は、ウラン事態が100パーセントプルトニウムと異なる物質であるため、つまりウラン自体が不純物と言う放射能廃棄物が、核融合臨界温度燃焼で燃え切らない物質自体が、不純物が、おそらく90パーセント以上で有る事が、放射能廃棄物の輩出量をマスコミで騒ぐ事実で明白で有る。

20

そのため、図2の核燃料原石又は陶器の箱にウラン原石を粉にした物質又はウランの粉を箱型に固めた物質又はウラン原石を粉にした物質とプルトニウムを混合圧縮技術も有るが、ウラン原石の粉を圧縮し固めた物質に電子エネルギーを加え続けると臨界温度まで、電子熱エネルギーを加え続けると原子力の臨界が始まるのだが、この技術は、電子熱の追加による臨界温度調整制御技術だけで有り、問題は、固められたウラン鉱石を保護する構造物質は、陶器物質としているが、何層もの陶器と鋼鉄板を重ねた多層構造の高熱蒸気循環の循環蒸気タービンで有るが、タービンを回した後の蒸気を復水器で冷やさずスクリュウ蒸気循環複数タービンの複数ダイナモ発電方式の方が、熱エネルギーの再利用としては適ってる技術と言える。

30

更に、図2説明では、蒸気調整制御が、書かれていないため、一回一回蒸気を冷やす無駄なエネルギー使用が、図によって明らかで有る。(例えば、図説・電気・電子用語事典・発行所実

教出版株式会社の図説参照。)。更に新しい循環蒸気タービンの説明を後で図説で行う。

コメント

2008年6月19日PM17時32分24秒腹がへり夕食とする美馬牛カンキチ。

2008年6月19日PM18時20分56秒塚崎商店へアイスとソーセージを買いに行く美馬牛カンキチ外はにわか雨の様子で有る。

【0006】

40

図3の説明では、動力源として水発電機を使用していて緊急補助機械式発電機1と、緊急補助発電機2を積載して入るてんで有り、モーターは2連結以上モーター使用で有り、ライトカメラ使用に地下GPS地図認識確認全自動ロボット装置を採用して入る点で有る。

更に、官滑り止めゴム付きカニ型ロボット機械を採用している点で有る。

そして、ホイスト劣化摩耗に強いレールモーター電気ホイストを採用している点である。

そして、万が一のパンク対応として、チューブなしタイヤで有る。

そして、衝突吸収ゴムと補助ケイ素軽水素ニッケルバッテリーシステムを積載してる。

(特許文献1,2,3,4、参照)。

コメント

2008年6月19日PM19時24分18秒お湿り程度の雨美馬牛カンキチ。

50

2008年6月19日PM23時9分37秒8行めから再び書く図面の手直し再び時間が掛かる美馬牛カンキチ

2008年6月19日AM8時36分7秒美馬牛静けさのなかでの曇り空大雪山の吹きおろしで、晴れるのだから曇ってるばかり、美馬牛カンキチ夏へ向かって頑張ろう。再び8行目からチャレンジ

【0007】

図4の説明を始める。

原子力廃棄物地下貯蓄施設においての万に一つの放射能飛散事故対応に対しての放射能の水の放射能融合特性を生かして放射廃棄物資が、こぼれた場合などの放射能物質を洗い流してバキュームで吸い取り放射能水として、再び再処理するための、放射能エアー連続噴水カーテン処理に続いて穴空き固形水素(固形液体マグネシウム)放射能センサーによって、第一放射能水処理冷蔵庫タンクの放射線濃度が、上がるまで、放射能水の0度以下低温の放射能水の連続気化作動によって濃い放射能水を第一タンクにストック出来る針穴空き固形水素冷却ガスカンパネルの空間付き5重層ぐらゐの固形水素又は炭素液体マグネシウム合成水素などが、真空装置エアー吸い込み口の前に取り付くのも放射能除去装置特有の構造である、更に強制水の気化吸入された気化酸素と気化水素は、再び水の噴水シャワーカーテンを通る事で、残りの放射能を噴水と共に洗い落とし更に気化水吸引モーター1によって、放射能センサー計測によって電動仕切り弁が開き、気化水吸引モーターが、作動し穴空き固形水素又は穴空き炭素合成液体マグネシウムの気化酸素と気化水素の融合体瞬間吸収発電する事で、放射能の入っていない水を作り出す事が出来る装置。(特許文献1,2,3,4,参照。)

10

20

【0008】

図5の説明を始める。

原子力廃棄物地下貯蔵施設に於いての万が一の放射能漏れ又は飛散事故に対して、放射能だけを取り除く装置に於いて、空気中の飛散放射能を6段階噴水シャワー装置と電動仕切り弁更に放射能センサーによって、第四放射能水処理タンクの放射能水の放射能度が、規定の放射能センサーチェックによって、高レベル放射能水として、別の一時高レベル放射能水貯蓄タンクへ保管されるシステム構造説明で有る。

更に放射能の入っていない気化酸素と気化水素の融合している水の気化物質は、穴空き固形水素固形液体マグネシウムに瞬間吸収発電する事によって、再び放射能の入っていない水は、複数放射能エアー清浄噴水装置の噴水用水として再利用出来る水の再利用システムで有る。(特許文献1,2,3,4,参照)。

30

【0009】

図6の説明を始める。

図1及び図2の新しい原子力そして図10の最新の原子力装置に欠かせない部品技術が、図6の電動モーター仕切り弁つまり、電動モーター水仕切り弁と電動モーターエアー仕切り弁装置で有り、すなわち水及びエアー等の仕切り弁手動ハンドル軸にモーター軸を取り付けた電動仕切り弁装置説明で有る。(特許文献1参照。)

コメント

2008年6月20日(金)AM11時47分42秒早めの昼食美馬牛カンキチまだ雲は厚い様子である。

2008年6月20日(金)昼PM12時37分30秒郵便局貯蓄高10万円有るので、なんとか暮らせる。

美馬牛北の方角が、先に雲がなくなりそうで有る。

2008年6月20日(金)PM13時0分11秒美馬牛郵便局で、未納済みの電気料金を支払う。大雪山の方角やや明るめどうやら十勝帯広方面は、晴れの様子で有る。美馬牛カンキチ再び書き始める。

40

【0010】

図7の説明を始める。

図7は、原子力廃棄物を、保存する為のアルミニウム亜鉛合金のドラム官の中央部を細めたカニ型挟み口ボットで、処理しやすい用にドラム官中央を細め更にドラム官の底蓋と

50

して、ゴムナット型の放射能廃棄物のドラム官衝撃防止構造になって居り、原子力廃棄物を入れる際、ドラム官の通常の入れ口構造では、放射能廃棄物が、流れたりこぼれたりする

おそれが有るため、図7のような大きいナット型の蓋構造として、更にドラム官を、固定するための金具取り付け装置を、ドラム官蓋の脇側に取り付ける構造で有る。

従って、放射能廃棄物が、入れられた後、衝撃吸収ゴム蓋が取り付けられる。

また、火災などのゴム燃焼防止策として、アルミニュームのカバー付きの衝撃吸収ゴム蓋構造が、無難対策だと考える。

確かにケイ素及びヨウ素及びホウ素及びフッ素及び窒素合成パネル材等で、作った燃えづらい物質などが、衝撃吸収ゴムの代用品などが上げられる。

更にドラム官は、挟み装置の衝撃に耐える構造にする為アルミニウム粘着テープをドラム官に巻く事で、ドラム官強度を更に増す役目をしている原子力廃棄物収納ドラム官構造とした原子力廃棄物収納ドラム官構造説明で有る。

【 0 0 1 1 】

図8の説明を始める。

図8は、原子力発電所から発電された生の電気を電気抵抗を掛けずに電気分割する方法として、図8の人口ダイヤ電気カット方式によって、電気配線から放電される短い距離の間に

人口ダイヤの先の鋭いカット人口ダイヤで、電気を二分割しながら電気圧を小さくして送電する方法が人口ダイヤカット電気分割方式で有り、圧電素子等の電気分割は、熱電気に耐えられる構造すなわち、超圧縮圧電素子に鋼鉄をかぶし更に陶器絶縁体をかぶした4分割配線構造でも、電気熱に耐えれず無理になると推定される。

そのため、人口ダイヤカット方式の電気抵抗を掛けないで電気分割する方法を活用する事とする高圧電気分割の電圧を下げる方法の有り方説明。

コメント

2008年6月20日(金)PM14時27分35秒美馬牛市街地北の空から晴れ間になる大雪山麓付近は、にわか雨なのかもしれないいつもの風の流れる有り様の事で有る。ペットボトルとガス官を投げて来る。美馬牛カンキチ。

【 0 0 1 2 】

図9の説明を始める。

図9は放射能廃棄物の分類として、水分と土及び岩石の粉及び放射線物質に分けられる。その内の水は、再利用として活用され、土と岩の粉はコンクリート材として再利用を目的と

して、更に一番問題な放射線物質を、アルファ線及びベータ線及びガンマー線に分けて液体シリコンと混合合成させた放射線液体シリコン又は放射線固形シリコンなどの放射線被害をなくす為に、図9の人口ダイヤ筒パネルに放射線液体混合シリコンを入れて蓋をした透明人口ダイヤ筒パネルの強度を増す為にアルミニウム枠をボルトナット止めた放射線シリコン内蔵人口ダイヤパネル装置構造説明とする。

別途使用用途説明

レントゲンカメラ等の放射線パネル。

アルファ線カメラ等の放射線カメラ

ベータ線カメラ等の放射線カメラ

ガンマー線カメラ等の放射線カメラ

この他別途ニュートリノ線液体シリコンパネルカメラまたは、可視光線液体シリコンパネルカメラなどの固定元素として、捕らえる事の出来ない物質または人または動物等に害を与える物質の利用方法追加別途説明とする。

【 0 0 1 3 】

図10の説明を始める。

図10の原子力発電方法の図1と図2の発電方法と異なる場所の説明を始める。

図1及び図2の復水器が、図10に設けられていない代わりにスクリー官と電動仕切り弁装

10

20

30

40

50

置が設けられているのに気が付くはずです。

更に、原子力核燃料は、陶器箱器に原子力核燃料の圧縮物質この場合、原子力圧縮物質を堅い容器などに閉じ込めない用になければならない理由は、核物質は、圧縮すればするほ

ど、エネルギーは、増大する物質で有る。

その事を踏まえて電子熱過熱の核燃料融合臨海温度は、おそらく核燃料の圧縮度によってわずかに微量の電気エネルギーでも、発火爆発になるため、弱い電子エネルギーでゆっくりあたためいきながら、核燃料の臨海温度及び核燃料溶解状態になる。

問題は、核燃料溶解炉は、冷やさずに安定した温度を保ち続けなければ、原子力廃棄物をたくさん作るだけの無駄な作業になる。

そのため、一度加圧機で、作られた水の超高压物質をここでは、合えて酸素加圧機のみとし水素は、過熱すると燃焼する際ここでも、微量の放射能が出るからで有る。

そのため、原子力核燃料に使用されるのは冷却材の水ではなく、酸素のみとして、加圧機で、

高温まで、上げらした酸素を一度に冷やそうとすると莫大な風エネルギーが、発生する。

それが、蒸気発生機で有り、電動仕切り弁等で調整する。

更に、莫大な蒸気風エネルギーをスクリー官使用によって更にスピードを増してタービンを今まで以上の高速回転を求めた高压蒸気使用方法説明で有る。

更に、タービンで使用された高速蒸気は、復水機を使用せず再び蒸気発生機に戻され加圧機の高温酸素によって、再び莫大な蒸気エネルギーつまり高温酸素と水またはスクリー官蒸気は、再び加圧高温酸素エネルギーと融合する事で、再びスクリー官を通り複数タービンを回転させたタービン軸のダイナモ回転発電エネルギーになる構造が現在の新しい核燃料発電方法の概要説明で有る。

追加説明。

原子力核燃料は、圧縮すると水素圧縮する事によってエネルギーが増大する特性を生かした原子力核物質の原子炉モーター回転核燃料圧縮核融合臨海温度制御方法の説明は、マスコミの写真に基ずいた推定説明で有る。

そのため、将来は、核物質自体を薄く延ばしたりした陶器などの複数重ね構造の核燃料の有り方へ向かう意味は、現在の核燃料物質の使い過ぎと、無駄な核燃料物質の核融合の有り方によって、原子力廃棄物の多量な輩出は、マスコミ報道の海外フラス技術の核燃料再処理技術を持ち得なければ、最終最後までウラン燃焼技術が、得る事の出来ない漠然原子力廃棄物再利用発電は、日本国民の生活に税金として重くのしかかる原子力構造説明で有る。

コメント

2008年6月20日PM16時8分22秒美馬牛佐藤商店基の源八商店へ買い物トイレの電球一つとバナナを買ってくる。漸く生活費なんとかなる美馬牛カンキチ。

最終説明。

上記説明に基ずく先発明の技術分野説明。

問題は、核燃料の再処理費用に莫大な金がかかる費用を省く原子力核燃料の臨海温度達成までの核燃料の温度を上げる方法を、弱電子熱から少しずつ電子熱を上げて行く原子力核燃料燃焼融合方法で有る。

つまり、太陽コロナと同じ考え方の核燃料融合物質の電子熱核融合電子熱調整は、無だがなく電子熱で、炭素物質と放射線物質になるまで、核燃料を燃やし続ける方法を美馬牛カンキチつまり、原子力廃棄物の少ない方と原子力廃棄物再処理に基ずく処理を一切必要としない程核燃料の電子熱燃焼方法を選ぶのだが、核融合炉の核燃料の冷却材の水を暖める際に水素と酸素に別れる蒸気は、酸素と軽水素そして重水素のプルトニウムは、核融合温度まで上がるため、水素プルトニウムは、微量の放射線放出は、実際に微量だが、放

射能放出されるの、正しい考え方と思える。

そのため、加圧機に用いるのは、水又は冷却材ではなく、酸素を用いるため微量放射能は

10

20

30

40

50

出ない説明で有る。

電子熱を使用した原子炉説明。

電子熱で、最後まで、原子炉燃焼するため、冷えた原子炉の中の放射線を、水の中にとり入れるか液体シリコン合成を行った上で、人口ダイヤ筒パネルに放射線シリコン合成の人口

ダイヤパネルまで、一度に放射能吸引に基づいて処理したうえで、放射線の抜け殻つまり原子力灰つまり炭素灰にしかないのは、電子エネルギー燃焼方法による核燃料燃焼発電の原子力廃棄物処理として、原子力灰は、コンクリートとして再利用で有る。

断り書き説明。

確かに、新しい原子力説明だが、低い温度の蒸気制御循環の蒸気発電方法または液体マグネシウム瞬間吸収連続発電などが、有るため原子力発電は、増え過ぎても困る放射線シリコンパネル機材物質説明までだからである。

コメント

2008年6月20日PM16時47分34秒原子力説明が、読む人に、マスコミ公開原子力技術と本などの原子力技術を総集した新しい原子力発電技術は、使ってもらいたくないのが身上である。

放射能除去技術は、お金があればロシアのチェリノブノ発電所近辺の放射能を無料で自動ロボット放射能処理技術を使って一日も早く救出したのが心情で有るが現在の身の上では無理で有る。

【 0 0 1 4 】

従って、図29から図39に関しての技術は、平成23年すなわち、2011年3月上旬の東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波被害によって、福島原子力発電所が崩壊した為、対策案として、原子力被爆事故を最低限にする為の技術に成り、2011年テレビマスコミと国の原子力機関が、原子力事故対策を、しているが、テレビマスコミで、確認している用に、原子力事故後の、原子力対策装置を、備えた原子力発電施設は、日本にただ一つの北海道泊り原子力発電所の、放射線遮断油圧天上扉装置が、付いている原子力発電施設に成り、東北の六か所村の、原子力廃棄物仮貯蔵施設にも、放射線遮断油圧またはモーター天上扉装置は、おそらく取り付けられていない構造に成り、実際に泊まり原子力発電所で、原子力事故が、起きた場合、高温気化水素爆発では、泊り原子力発電所の天上放射線遮断扉でも、曲がる恐れが有る為、爆風吸収官スプリング壁室なども、今後必要視されるが、現在は、泊り原子力発電所の放射線放出後の冷却施設が、活動している時に閉める放射線防護遮断天上仕切りの厚手金属板壁に成る。

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 1 5 】

以上述べた従来の原子力発電方法では、無駄が多すぎて発電コストが、国と地方の財政をマスコミ報道の1000兆円近くになる赤字は、企業抜きの国民では借金返済が無理な所まで来ている事実は国民生活に借金苦として重くのしかかる事となった事実で有る。

【 0 0 1 6 】

本先知的所有財産の先発明は、原子力発電の無駄を無くし更に放射能廃棄物の適切な再処理と飛散させない、誰でも使用可能な微量放射線利用を実現する事を目的とするもので有る。

コメント

2008年6月20日(金)PM18時6分45秒から野菜炒め混ぜご飯を食べて梅湯を飲む美馬牛カンキチ雲は、大雪に向かって吹いているのが、雲の流れで一目瞭然、後5時間30分少し頑張ろう美馬牛カンキチ。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 7 】

そして、本知的所有財産の先発明は、上記目的を達成するために、原子炉モーター回転による核燃料圧縮と圧縮熱による核融合臨海温度の蒸気タービンダイナモ連続作動発電方法

10

20

30

40

50

だったのが、今までの発電方法で有る。

原子炉の核物質の核融合発電方法は、核燃料のウラン原石若しくは、ウラン原石を粉状にした物質を、箱型に固めるかウラン原石の粉末を固めて圧縮した閉じ込めていない剥き出しの核燃料を臨海温度まで上げる方法手段として、弱電子熱をゆっくりかけて温度を上げて臨界温度まで、持って行く事で、少量の電子熱で、核燃料物質を臨界温度のまま保ち続ける事が出来るため、大型の原子炉を必要せず、モーター回転など、ミッションギアの摩耗交換などの心配もなく、核燃料が一度臨界温度まで、熱すると後の電子熱微調整が出来

るのは、原子力核燃料ウランの本来持ち得ている冷めずらいと言う特徴と核燃料ウラン臨界温度核融合が、続くのも核燃料ウランの本来の特徴で有り、電子熱で、核融合調整制御するのは、理解していただけたと思います。

【 0 0 1 8 】

第2の解決手段として、(図説・電気・電子用語事典・発行所実教出版株式会社第18刷発行140Pの軽水形原子力発電説明文章参照。)又は図1参照。

すなわち、加圧器に通される冷却材つまり、水は、高温加圧する場合水は、高温になる時、気化酸素と気化水素の高温融合物質になる。

理由は、原子炉核融合炉とも呼ばれ臨界温度まで、核燃料物質の原子炉は、モーター回転圧縮しながらの原子炉核融合臨界温度制御になる、実教出版第18刷発行の140P説明の図説になる。

すなわち、原子炉が、臨界温度まで、上がるが、それ以上上がらないのも原子力ウランの臨界温度の特徴で有るが、水が、高温気化した際水素は、核燃料の臨界温度まで向かうと水素

は、燃焼する事も考えられる事と、加圧器の圧力調整事故などの防止のため、ここの部分を酸素加圧器に変える事とし、循環高温酸素循環蒸気発生器する。

尚、不足酸素は、圧力低下に基づいて酸素補給とするが、おそらく酸素補給なしが、通常の状態だと思われる。

従って、高温酸素を、高圧縮させた高温ガスを蒸気発生器に高温酸素ガス官を通す事で、蒸気発生器の水またはお湯等の液体は、一瞬にして液体から気体蒸気ガス膨張と共にスクリー官を通過してタービンを高温蒸気風によって連続高速タービン回転が出来る構造で有り、タービン回転軸と連動しているダイナモを回す発電方式で有る。

すなわち、今までと異なる発電システムでは、復水器を使用しないで、スクリー官使用によって、通常の加圧蒸気のスピードを更に上げる理由は、復水器を使用せず、蒸気発生器

を、厚い鋼鉄性の蒸気発生装置として、電動仕切り弁を多く使ってるのが特徴でも有り、タービンをスクリー高温沸騰水がタービンを回した後のスクリー水を平常なお湯に戻す場合は、蒸気発生機には、いつでもお湯又は、水が有る程度入ってなければ、スクリー水衝撃は、まともな力として、蒸気発生器に受けるため、予めお湯等を入れておき、お湯の

中にスクリー水を戻す事で、スクリー衝撃を消す働きを持つ構造お湯入れシステムをきちんとしなければならない。

更に、蒸気タービンは、循環蒸気タービン構造として、原子炉の電子熱核融合炉を小さくする事を目的として、更にウラン鉱石が、最後まで、臨界温度燃焼する事によって、原子力廃

棄物を少なくして、放射能線をすべて冷えた形で、放射能吸引して、図9の液体シリコン放射線混合合成によって、レントゲンカメラなど等の放射線パネル利用として一般庶民活用

の方向へ知的所有財産活用の原子力廃棄物の安全な超微量放射線パネルの連続活用が可能になるため、今まで国家試験のレントゲンカメラの一般使用の道が、開ける事となる。

【 0 0 1 9 】

そして、第3の課題解決手段として、図7にも有るように原子力放射能廃棄物の容器の有り

10

20

30

40

50

方として、通常ドラム缶は鉄性のためさび易く、原子力廃棄物缶として適していないそのため、亜鉛アルミニウム合金のドラム缶使用で有り、中央が狭まった形状で有り図3の全自動GPSロボットは、金属センサー位置確認と地下GPS天上位置固定の地下CD地図の十字ライン位置においての天上ライトカメラ焦点距離位置認識確認装置及びロボット車体位置十字カメラ地図位置認識確認の3種類の位置確認認識装置によって、ロボット機械位置の把握に基づいて地下ロボット機械の全自動ライトカメラ作動出来る放射能廃棄物ドラム缶処理ロボットによって無理なく放射能処理ドラム缶を運ぶロボット機械によって容易に運べるドラム缶構造にした放射能処理貯蓄の為に原子力廃棄物缶で有る。

【0020】

そして、第4の課題解決手段として、地下ロボット機械の金属センサー認識装置説明として、

ドラム缶は、アルミニウム亜鉛の為に、地下ロボットは、アルミニウム亜鉛の有る場所を

探すだけで無く、最初に記憶されているドラム缶位置を、機械整理順番に、全自動金属センサー位置確認する方法を取っている。

この場合、ドラム缶に金又は銀などの金属位置確認出来る目印のため、ドラム缶に超小型金属を取り付ける方法も取られる技術も容易して有る。

ただし、故障などの場合は地上からカメラライトリモコン操作も可能な全自動ロボット機械で有る。

【0021】

そして、第5の課題解決手段として、地下には、上空のGPS電波は、届かないため、部屋それぞれの天上に地下ロボット機械用の電波送受信地下GPS装置を取り付ける事で、天上の電波

送受信装置位置安定によって、地下の室内地図距離が、スロー電波送受信時間にて地下ロボット距離の電波送受信距離認識確認が出来る装置。

【0022】

そして、第6の課題解決手段として、天上固定ライトカメラ位置のカメラ立体位置データ地図の確認認識とは、天上固定カメラから見る地下ロボット機械のカメラ焦点位置距離に対して現在位置の地下GPS装置位置との位置合意によって、地下のロボット機械位置は確定する。

【0023】

そして、第7の課題解決手段として、地下ロボット機械カメラの補助確認装置説明は、原子力

廃棄物ドラム缶の金属センサー確認認識だけでは、ロボット機械が、原子力廃棄物ドラム缶認識出来ないため、缶挟み装置の先二か所に超小型カメラを内蔵させ、更に原子力廃棄物ドラム缶に色の目印を原子力廃棄物ドラム缶に取れないように付けなければならない事になる。

理由は、ライトに照らされた原子力ドラム缶位置を、缶挟み装置が、ダイオードカラー色確認認識と金属センサー認識とカメラ焦点距離位置認識などの3段階認識確認によって、地

下ロボット機械の原子力廃棄物全自動処理のドラム缶全自動説明とする。

【0024】

そして、第8の課題解決手段として、スピーディーに動ける地下ロボット機械の更なる電波センサー使用は、地下ロボットの周囲に取り付けられている電波発信装置と電波受信装置の地下室の電波跳ね返し受信によって、地下ロボット機械は、ぶつからずスピーディーに作業出来る秘密で有る。

【0025】

そして、第9の課題解決手段として、地下ロボット機械が、ぶつからずスピーディーに作業出来る秘密は、カラー色ライトラインのサイド360度取り付けとそれに伴うカラー色ライト

10

20

30

40

50

安全距離データ比較によって、カラー色ライトの360度決められたライトカメラカラー色ラインライト安全距離認識確認のダイオードカラー色ライトライン距離カメラ認識データ確認装置によって、更なる補助地下ロボット位置確認認識技術説明になり、これら複数の地下ロボット機械位置確認技術が、有ればこそ全自動CD表裏両面地下GPSデータカメラ焦点チェック技術とカメラダイオードカラー色確認データ比較認識技術と電波送受信距離チェック技術とカメラ物体テレポーション物体ストック写真データダイオード写真形状認識によって、本来無理とされて来た全自動地下原子力廃棄物処理ロボット機械全自動装置の説明とする。

【 0 0 2 6 】

そして、第10の課題解決手段として地下原子力廃棄物処理貯蔵室で、万が一の放射能漏れ事故を想定して、放射能全自動処理回収の再貯蔵処理までの地下ロボット機械の放射能漏れの処理手順の説明に入る。

従って第9の解決手段まで、地下ロボット機械の全自動作動方法は、説明した通りで有り、次に原子力放射能及び廃棄物処理ロボット機械の説明に入る。

図3又は図4のロボット機械の電力は、無害無給油連続ダイナモ連続作動発電機及び水発電機など、緊急補助機械式発電機積載の連続発電される電気エネルギーによって、2連結以上モーター制御レールモーターのダブル制御モーターによって、1センチ以下の範囲まで、モーター制御出来る技術が、有ってこそ第9までの全自動認識確認装置のスピーディーな

動きが連続無休憩無給油作動出来る説明は、第10の無害無給油連続発電機の電気エネルギーを使用したダブル制御モーターの存在は、これから未来の全自動制御ダブルモーター制御技術は、必ず使用される技術紹介で有る。

コメント

2008年6月21日AM8時39分25秒本日的美馬牛朝深い朝靄どうやら冷たい空気が入りばなしの状態であり、風でも出てくれれば直ぐに晴れそうそんな朝美馬牛カンキチ頑張って行こう。

【 0 0 2 7 】

そして第10の解決手段は、放射能水を水と放射能に分ける技術説明である。

図4に書かれている用に、水発電機などの無害無給油の連続発電機の電気エネルギーで全自動機械作動出来る説明は、第9で説明した通りで有る。

地下の施設で、放射能漏れの場合まず全自動室内GPSロボット機械の全自動バキュームで、放射能水を、第一放射能水処理タンクに一時保存するので有るが、低い位置に穴空き固形

水素冷却ガス官パネルに放射能水が収まる透き間の有る空間を持ち得た5重構造の穴空き固形水素冷却ガス官パネル構造の上にモーター回転式の穴空きのパネルを設置し回転させる

気化水素と気化酸素は、回転してる穴を真空状態で、通過するが、放射線は、回転する穴を通らず跳ね返って下に沈む理屈になる。

この場合この回転穴空きパネルは、穴空き固形水素冷却ガス官パネルの下に付けるだけでなく、穴空き固形水素冷却ガス官パネルの間すべてに回転穴空き式の放射能返し装置が、取り付けられる構造になる。

すなわち、低い温度で放射能水は、瞬間気化と同時に穴空きパネルは、既に回転作動しているため、放射線返し装置によって放射線だけは、穴空きパネルを通らない構造の仕組みで有る。

従って放射線から離れた気化酸素と気化水素は、放射能噴水カーテン連続分離装置かけられまだ残っていた放射線は噴水と共に第二放射能水処理タンクへ噴水シャワーと共に放射能も落ちて溜まり、更に第二放射能水処理タンクにも、放射線返しの穴空きモーターパネルが取り付けられて有る。

更に最終の気化酸素と気化水素が、放射能の入ってない水に戻す装置は、液体マグネシウ

10

20

30

40

50

ムと炭素合成の発電装置によって、気化酸素と気化水素は水に戻る事となる説明で有る。
コメント

2008年6月21日(土)AM10時35分12秒第12の解決手段まで、美馬牛郵便局ポストへ先発明証明のため、ピバスーパーのアイス領収書時間付きで、320円分の切手を貼って出す。
チエリエノブ原子力発電事故の処理が、終えて無いのは、放射能除去装置が、誰も作りえて

いないのが現状だと思える。

明日は我が身つきまり、原子力事故が、起こり大量の放射能飛散事故の対策が無い現状に対して少し対策を考えておかなければならない時代で有る。

2008年6月21日(土)AM10時58分58秒米を研いで炊飯洗い物済ませ再び挑戦。

10

【 0 0 2 8 】

そして第11の課題解決手段は、放射能の入った空気を綺麗な空気にする装置説明を始める。

その上で、図5のエアーダクト装置には、空気中の放射線を洗い流すための複数噴水カーテン装置が取り付けられており、穴空きモーター回転パネル装置が、6段階の噴水装置と共に

に別れて取り付けられており、放射線の入って無い綺麗な空気だけが、エアー吸引モーター装置によって気化酸素及び気化水素吸引される。

従って、綺麗な放射能の入っていない気化酸素と気化水素は、放射能センサーの放射能有無の確認の上で穴空き固形水素冷却ガス官パネル装置の下側に気化酸素及び気化水素として挿入される。

20

この場合、後の試験結果によって、直接固形炭素及び液体マグネシウムの合成固形水素に瞬間に気化酸素と気化水素の吸収発電によって、再び綺麗な水として再利用される構造が、放射能除去装置の概要説明になる。

また、第四放射能水処理タンクは吸引エアーで一杯になり、更に複数散水装置によって、空気中の放射能を噴水シャワーカーテンで洗い流した放射能入りの水は、第10の課題解決手段同様に一度溜められた放射能水は、穴空きモーター回転パネル及び針穴空き固形水素冷却ガス官パネルの取り付けられて入る第四放射能水処理タンクの部屋の空気をすべて真空装置によって取り除き、この時点で、穴空きモーター回転パネルは、既に作動していて、第四放射能水処理タンクの部屋は、真空状態になるため、穴空きパネルの高速回転の一

30

瞬の透き間をくぐり抜けて、給水貯蓄水タンクに取り付けられて入る針穴空き固形水素パネル発電を行って、綺麗な放射能の入っていない水になる。

追加説明。

図5に使用される無害無給油連続発電機は水発電機を使用する。

【 0 0 2 9 】

そして、第12の課題解決手段は全自動放射能水処理に絶対必要とされる電動仕切り弁モーター装置。

【 0 0 3 0 】

そして第13の課題解決手段は図8に書かれて入る原子力発電所から生の電気が送電線に送る場合、生の電気を一度分けなければならないので有るが、電気に無理を掛けずに電気を2分化ずつに分ける人口ダイヤ電気カット方式で有る。

40

プラスまたはマイナスそれぞれの電気配線口に、人口ダイヤカット口を当てて電気を人口ダイヤの刃で、2当分する技術を、人口ダイヤ電気カット方式と言う。

コメント

2008年6月21日PM14時26分51秒追加図面の為、時間がかかるどうやら曇り空で終わる様で有る美馬牛の空そして、微風大雪山は、完全に霞がかかりばなし美馬牛カンキチ。

【 0 0 3 1 】

そして、第14の課題解決手段は、図9に書かれて入る放射能線の再利用方法の説明を始め

50

る。

現在までの医療現場で、使用されて入るレントゲンカメラは、わずか微量だが、放射線を放出してレントゲン写真を取る技術が、一般化されて来ていたのが現状である。

そのため、レントゲンカメラの微量でも有るが放射線を放出飛散させない技術として人口ダイヤ筒パネルに放射線と液体シリコンの混合合成液を、人口ダイヤ筒パネルに入れて蓋をして漏れない構造にしてから、アルミニウム板枠などで、ボルト止めした人口ダイヤ筒パネル装置説明で有る。

【 0 0 3 2 】

そして、第15の課題解決手段は、図10に書かれて入る新しい原子力発電システム図で有る。図10の説明を始める。

核燃料は、ウラン鉱石を、陶器箱に入れて電子熱で少しずつ過熱して行って、核燃料臨界温度まで、核燃料ウランを過熱し続ける事で、臨界温度まで達するまで、過熱し続ける。そのため、一度臨界温度まで、達せられた原子力核燃料ウランは、冷えずいそのためわずかな電子エネルギーを足して核融合炉の臨界温度を保つ事とする。

第二の作業は、核融合炉は、鋼鉄二重構造になってるため強制酸素を送って加圧した空気を蒸気発生鋼鉄二重構造に流して、超高温圧縮空気によって、瞬間的に高温蒸気を発生させて高温蒸気は、スクリー官を通して更に高温蒸気は、スピードを加えてタービンを回転させてタービン軸と連動する入るダイナモ装置を、今まで以上の回転発電させる事が出来る原子力蒸気タービン発電機で有る。

更に、復水機を持たない蒸気タービンから出る高温なお湯は、鋼鉄蒸気発生機に再び再び加圧機の高温圧縮空気によって、高温蒸気発生になり再びスクリー官を通りタービン装置を回して発電する。

この繰り返し発電を新しい空気加圧型スクリー蒸気タービン発電方法で有る。

【 0 0 3 3 】

そして、第16の課題解決手段は、図12に書かれて入る図は、図4と図5を大きく拡大して説明した図説明である。

図12の穴空き放射能取り除き放射能返し装置で有る。

この装置は、真空装置で、水位センサーで決められた放射能水量の水を瞬間冷却気化させ、

穴空き放射能取り除き装置は、レールモーター回転し、真空装置で瞬間気化した気化酸素と

気化水素だけが、回転中の穴空き放射能取り除き装置を通る事が出来る構造説明で有る。上記課題解決手段16項目に於いて今まで以上の原子力発電電氣量が望め、更に放射能廃棄物を減らした原子力発電方法で有り、更に原子力廃棄物の放射能の安全な使用方法を確立した人口ダイヤ液体シリコン放射能合成筒パネル装置で有り、地下原子力廃棄物放射の漏れ事故の全自動ロボット機械放射能廃棄物処理出来るロボットによって、原子力管理に少しでも、安全追求の説明を添える事によって、金の余りかからない原子力発電処理まで、提供出来る。

【 0 0 3 4 】

そして、2011年つまり平成23年の3月上旬の東北太平洋側マグニチュード9の地震津波事故によって、福島原子力発電所の第17としての課題解決手段を、図29によって、2011年3月27日pm13時27分から図説を始める。

福島原子力発電所の事故の問題点説明。

第一問題点

福島原子力発電所及び全国の原子力発電所は、過去の日本の原子力発電所の鋼鉄軸破損事故を、受けて原子力ミッション軸を、太くする改善によって、原子力発電施設のミッション破損は、免れたが、原子力タービン室の床板亀裂等の事故によって、濃高度の放射線水が、漏れて原子力復旧工事の人の放射線被爆事故が、報道されているのも、現状なのは、過去に放射線事故が、余り日本に無く、マグニチュード9近い地震事故例が、無い為、放

10

20

30

40

50

射線事故パターンの予測を、しないで放射線処理を、行っている事は、東京電力の過失に成り、おそらく海外の原子力事故例に、基づく被爆対策の作業員教育は、行って無い為、被爆事故が、起こって入るのも事実な事が、明白に成る。

従って、最終的には、福島原子力発電所の放射線水を、処理する場合、原子力発電装置の核分裂の原子炉室の壁に亀裂が、入ってる為、放射線水が、外に漏れているのも、現状で有り、放射線を、回収する必要性とは、東京電力以外の財産に、放射能水被害を、及ぼすと、場合によって、何拾年または何百年そして、半永久に、放射線汚染によって日本国民の財産を、放射線被害物件にしてしまう恐れが有るからなのは明白で有る。

第二問題点

福島原子力発電所が、地震の為、緊急停止して、原子炉にひびが入り、高温状態が、続く事によって、より多くの放射線が、外に出る為、原子炉を、緊急に海水等で、冷やしたが、原子等のひびが入ってる部分の修復は、外側から、溶接しても、再び地震が起こるとすぐにひび割れ状態が、更に悪化する恐れが有る2011年3月27日の事実判断に成る。

第三の問題点

停止中の原子炉内の核物質は、六か所村に、核廃棄物として、移動不可能なのは、一度核融合した核物質は、完全にさめない状態のまま半永久に続く為、別の核融合発電施設で、核融合発電を、行って、余り熱の発生しない放射線廃棄物化するまで、原子力プルトリウムを、使い切らなければ成らない事実。

第四の問題点

福島原子力発電所を、完全停止するのが、国から認可された場合、原子炉に有る核物質を、持ち運び運搬出来る大きさまで、小さくしてから、運搬したり、核廃棄物の再処理を、フランス国に依頼して、プルサーマル使用用の核燃料に炭素固形核燃料に変えてから処理する方法が考えられる。

第四の問題点

福島原子力発電所は、6号機まで、原子力廃棄物を、冷やしているのも、現状だが、水を入れて冷やさないと、温度が上がり水分の気化水素化と気化酸素の膨張によって、放射線廃棄物自体が、危険物に成るが、放射線再処理を、行った放射線廃棄物の場合、放射線廃棄物つまり、アルファベーターガンマー線だけの廃棄物では、温度上昇は、余り行わない為、青森県の六か所村でも、処理貯蔵が、可能に成る。

第五の問題点

福島原子力発電所内に、放射線廃棄物の、移動型再処理施設または、放射線廃棄物の再処理施設を、作らなければならなく成る事。

最終の図29の説明

従って、2011年の3月の福島県原子力発電所事故以外では、東京近辺の千葉県もしくは、茨城県の原子ウラン粉末の混合合成時に発生した核融合の小さな放射線被爆事故が、有るが、日本国自体での、放射線事故は、戦前の広島原爆事故と長崎原爆事故以外無い為、本当の原子力の知識を知り得た知識人は、少ないはずで有り、放射線は、戦後、レントゲンカメラの、超微量のガンマー線放射カメラに成り、レントゲンカメラ内の強制放射線放出事実は、個人的には、確認した事が無く、レントゲンカメラの被爆事故報告の

テレビマスコミ報道事実は、無いのも現状で有るが、今回の、福島県原子力発電所の事故による放射線濃度が、国の定める規定量の数千倍から数万倍と報道されている事実から、少なくとも、異常で有り、被爆者は、放射線やけどの恐れが有るまでテレビマスコミ報道されている事実を、受けて図29の説明を始める。

確かに、図36と図37と図38では、放射線水からの放射線水被曝を、少なくする装置を、急遽公開する事にしたが、図29の高出力水発電機は、液体マグネシウムの水素と酸素の気化物質の融合体を、瞬間に吸収発電させて発電する技術と新2連振子型機械式発電機の高出力発電回路と高出力ダイナモと高出力電磁誘導発電装置と高出力熱瞬間吸収磁気熱

電気変換発電シートパネル装置等の世界最新の発電技術を、簡単に言えば燃料電池の循環発電型の発電機に、二つのダイナモ発電装置の電気量と燃料電池の発生する無駄な熱を電気変換させる技術と圧電素子磁石体と軽水素トリチウム電子を、使った電気を、軽水素入

10

20

30

40

50

りの圧電素子磁石体に高圧電気を通すだけで、発電する装置は、全世界が、夢の前の、あ
あだったら良いなーの夢の途中の発電技術を、複数使用する事で、世界で騒がれている無
害な水素タンクに水素の補給式の燃料電池より、多い発電量が、手に入る高出力水発電機
の発電機の発電量は、災害時の、ガソリン給油と軽油給油と充電の電気充電とガスタン
クのガス補給と水素タンクの水素補給等が、全く必要の無い画期的な、発明財産によって
、いかなる災害の場所でも、適用出来る無害無給油の無休憩の全自動発電装置が、高出力
水発電機に成り、通常の水発電機は、既に、実用新案登録済の財産に成り、全自動ロボッ
トの著作権文章と全自動自動車と全自動建設機械などは、著作権文章は、書き上がってい
る現状だが、今回は、誰でも、直ぐに解るリモコン装置の遠隔

操作可能な濃厚度の放射線水を、現在知られているバキュームカーの改良タイプを、紹介
する事に成り、高出力水発電機等の別途説明は、増野和夫の他の特許提出文章の参考を、
踏まえて簡略説明とし、簡単に言えば、燃料電池は、水素と酸素の液体マグネシウムの瞬
間吸収発電時に、水だけを残す為、水を再び、真空装置等を、使って、酸素と水素の気化
融合物質を作り、水素と酸素の気化融合物質を、再び、液体マグネシウム等に、瞬間吸収
発電の連続発電を、可能にしたのが、水発電機で有り、水発電機の総合発電量を、燃料電
池より、遥かに発電量を多くしたのが、高出力水発電機に成る。

高出力水発電機を使用した放射線水の放射線と水に分ける装置は、特許切れの遠心分離機
を、改良した複数の針穴が空いた錆び止め加工した鋼鉄板加工板に閉じ込められた放射線
水を、世界最高スピードの出るモーター遠心分離機回転によって、放射線水は、水素と酸
素に別れて軽い水素の放射線水素と酸素に一度分けてから、濃厚度の放射線水素を、放射
線水に混合する事で、濃厚度の放射線水が出来る事に成る。

従って、放射線を取り除いた酸素は、フィルターを、使用して、大気中に無害酸素を放出
する事で、放射線量の多く入った放射線水素水が出来る事に成り、放射線水保管の専用容
器に入れて保管する技術が、放射線水の回収技術に成り、高出力モーター及び高出力水
発電機及び高出力リモコン装置には、多くの軽水素が、使われて入るのも現状で有る。

従って、放射能水の放射能と水に分ける図12の装置は、遠心分離機で回転させる放射線水
が、水素と酸素に別れた遠心分離機速度中遠心分離機内に放射能返しの小さな複数の板の
放射線返りによって、複数の針穴から、放射線だけを、取り除く放射線除去装置の別途構
造の説明に成る。

2011年3月27日pm16時48分小休止をしてから再び書く事に成る千葉県増野和夫ペンネー
ムカンキチ木白子ちゃんで有る。

2011年3月27日pm17時59分から再び書き始める千葉県増野和夫で有る。

更に、図29の前後左右上下カメラは、原子力発電所内の上下左右前後の物体を、確認認識
する為のライトカメラ装置に成り、新技術の軽水素トリチウム電子入りダイオードLED
ライト使用に成る。

この他、高出力2連結以上モーターは、軽水素トリチウム電子入りの圧電素子磁石体粒子
内蔵の、超軽量高出力圧電素子磁石体を、使用積載しているのも、特徴の一つで有り、
軽水素トリチウム電子入り圧電素子磁石体シートパネルと複数針穴構造の軽水素トリチウ
ム電子入りチタン酸パリームシートパネルを、交互に貼り合わせた高出力圧電素子磁石体
は、軽水素トリチウム電子量を、たっぷり圧電素子磁石体粒子内に、取り込んで入る為、
圧電素子磁石体の圧電効果が上がった圧電素子磁石体に成り、一例として、高出力圧電素
子磁石体を、電子ライターの石に使用すると、電子が発生及び飛び出す電子量が多く成り
、電子レンジのマグネトロンに高出力圧電素子磁石体を、使用積載した場合は、少ない電
気量で、電子発生を、多くの電子量を得る事の出来る電子レンジ装置が可能に成る。

従って、高出力モーターに使用積載内蔵する高出力圧電素子磁石体に、超薄型の複数針穴
構造のステンレス永久磁石板を、高出力圧電素子磁石体に被せる用に貼り付けた高出力内
コイル永久人工合成磁石板に、高出力銅筒官コイル配線の軽水素トリチウム電子入りの圧
電素子磁石体粒子を、銅筒官コイル官の筒状の中に軽水素トリチウム電子の多く入った圧
電素子磁石体粒子を、銅筒官コイル配線に内蔵したコイル配線を、永久人工合成磁石体板
に高出力銅筒官コイル配線を、巻く事で、超軽量のモーター内コイル板が、出来上がり、

10

20

30

40

50

必然的に、通常内コイル板より、軽い為、世界最高速度のモーター内コイル回転が、可能に成り、更に、電気の通り易い物質の軽水素トリチウム電子を、コイル配線と内コイル板に、積載内蔵している為、電気が、通り易く成つて、尚一層電気のモーター電気消費を、少なくしている簡単な理由で有り、世界で一番高速回転モーター技術と世界で一番のモーター消費の省電気消費モーター技術を、世界で初めて可能にした事に成る。

従って、本田技研のハイブリットエンジンに積載内蔵しているDCブラシレスインバータ制御モーターのコイルと永久磁石と電磁石とインバータ装置の圧電素子磁石体と電気配線等を、高出力技術に変えた、同じデザイン形状のモーターでは、高出力DCブラシレスインバータ制御レールモーターの方が、電気消費が少なく、世界最高速度のモーター回転を、得る事が出来る装置に成る。

この他、高出力DCブラシレスインバータ制御レールモーターの永久人工合成磁石板と高出力電磁石の厚みを、2ミリメートル以下にした電気配線付きの高出力電磁石を、積載内蔵した高出力DCブラシレスインバータ制御レールモーターの場合は、2ミリメートル内のモーター微調整が、可能に成るが、モーター電磁石配線束は、必然的に太く成る。

この様に走行用高出力モーターは、高出力DCブラシレスインバータ制御レールモーターを、使用積載する事に成り、パキューム吸引用モーターは、2連結以上モーターの外コイル式を、使用した高出力モーター構造が望ましいモーター構造に成る。

【 0 0 3 5 】

第18の課題解決手段として、図30の説明を、始める2011年3月27日の千葉県の上野和夫で有り、2011年の平成23年の3月上旬の東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波事故に因る福島県原子力発電所の高温水蒸気水素爆発と水素爆風と放射線水素爆風によって、地震によって原子炉の壁に亀裂が、入ったのは、原子炉用の地震の震度を軽減する原子炉免振装置が、日本全国の、一か所も原子炉用の免振装置の設置が、無かった事で有り、日本には、ビル免振のゴム免振は、振動を、軽減出来ず原子炉免振に適して無いのが

事実で有り、飛鳥建設のエアーホイスビル免振も、振動を、全て吸収出来なくて不適切の免振装置に成り、最近テレビの宣伝で、騒がれて入る複数鉄板パネルと複数強化プラスチックゴムを、複数重ねた鉄球軸の免振装置も、振動を、全て吸収出来ない為、原子炉の免振使用には、不適切に成り、今回の、2011年3月上旬の東北太平洋側福島県の地震津波事故と成り、免振装置としては、列車免振装置などが有り、古くから有る技術として、橋すなわち橋脚コソ免振装置が、有るが、重量物の揺れから来る金属摩耗が、欠点の免振装置で有った為か、1999年までの、地震に於いての原子力事故としては、地震の揺れに耐えられる強度を、持った鋼鉄ミッション歯車を、一回の予測設計で、書けなかった東京電力のミスで、原子力停止事故が、起こり、今回の様な、放射線の大量流出の前に、発電し続けて、核融合物質の放射線放出熱量が治まった所で、新聞発表を、行って、改善策の設計書を、国に提出する事で、乗り切ったのが、過去の原子力の日本の事故説明に成り、原子力は、一度動かして、臨界まで、達すると、核物質の熱放出が治まるまで、放射線を出し続ける為、危険物質に成っている理由の一つで有る。

対策としては、零度水より、低いマイナス振動水によって、核融合物質を、冷やし続けると核分裂が、停止する可能性は、未定より、低く成り、零度近く成った放射線物質を二重の放射線廃棄物の固形窒素にヘリウムを混合合成したヘリウム窒素を、内蔵した放射線廃棄物処理官に放射線廃棄物を、入れた放射線廃棄物官を、永遠に冷凍庫で、氷にして、放射線活動を、停止させる方法が、有るが、この装置を、作った場合の、企業が、国に請求する金額が、過去の原子力むつ船の国の年間予算の3年分から5年以上の、請求額に成らない用に、注意しなければ成らない。

従って、2011年3月27日付けの領収書を、貼り付けた原子力廃棄物処理の著作権簡略文章を、北海道知事宛てに出して置く事にすると、確認の為の図面として、特許図面として公開して置く事によって、莫大な放射線流失の熱放射線プルトニウムの処理の莫大な請求額の対処を、行って置く事にする2011年3月27日pm20時58分セブンイレブに向かう千葉県の上野和夫で有る。

外部へ放射線が、漏れない用にする対策説明

10

20

30

40

50

2011年3月28日am6時10分現在、放射線は、蒸気と成って、漏れ続けている理由として、福島県原子力発電所の壁が、壊れた事と、水蒸気を、回収して、原子炉水に蒸気を、戻すりサイクルシステムの故障によって、外部へ放射線が、漏れている理由に成る。

現況の対策説明

現在、福島原子力発電所の壁の破壊と鉄骨破壊によって、建物自体の普及には、一度こわしてから、新たに鉄骨を、汲んで復旧する場合は、日数が、掛る事と、放射線放出量が多い場所では、冷やす作業までに成る為、最終的に、放射線を、外部に漏れない対策として、一回り大きい放射線の通らない壁を、二日程で、作り上げる技術は、木製型枠では、日数が、掛り過ぎて、放射線の元で、作業する建築大工がいけない事などが理由に成る為、一日で放射線を、防止出来る壁が必要視される。

10

従って、仮設用で簡単に出来て放射線を、防ぐ事の出来る壁材として仮設防護壁材として、グラスファイバー組立枠が、考えられる。

その為、ステンレス板などが、内蔵に成っているガンマー線まで、防止出来るボルト止めと繋ぎ部分は、鉄粉プラスチック溶液によって、固定する構造に成る。

注意点説明

グラスファイバー組立枠に成る為、四角枠の枠防護引っ張り金具が必要に成るが、隙間部分は、酸化鉄粒子プラスチック溶液などで、固めて固定出来る利点がある。

【 0 0 3 6 】

第19の課題解決手段として図31の説明を始める2011年3月28日月曜日am6時51分から日本国民と国の話し合いによって、原子力発電所を、続ける場合の地震事故防止対策として原子力発電所の原子炉用の免振装置が必要に成る。

20

免振装置の選ば無ければ地震の揺れから来る原子炉破壊を、防ぐ事が出来ない理由に成る。

従って、日本国内には、免振装置として、ビル免振として、ゴム免振があるが、二階建の免振装置として、一部の企業及び公共の建物に使用積載されているのも現状だが、高層ビルの免振装置には、不向きなのは、逆に揺れて大事故に成る為、10階等のコンクリートビルでも、ゴム免振が使用されない理由として、コンクリート重量で、ゴムが潰れるから免振装置の役割を、果たさないからで有る。

そして、最近テレビ放送で、免振装置として、ゴム免振の改良型として、強化ゴムパネルと鉄板パネルを、交互に貼り合わせる事でゴム免振の欠点を無くす装置に成り、東京都のはずれの埼玉県越谷市の10階程のビルに免振装置が、取り付けられているが、地下一階に、免振装置が、取り付けられて入るが、ビルが、高く成る程、地下3階以上つまり

30

地下5階及び地下7階等にした底に、免振装置を、取り付けビル全体の重量を、支える免振技術と、ビル全体の横揺れを、吸収する為の免振技術が、必要に成るが、ゴムパネル分横揺れを、防げない欠点があるが、ゴム免振より、階数を増やす事が、出来るが、高層ビルは不向きに成る。

従って、原子力施設に使用しても、全ての地震の揺れを、取れない為、使用に対しては、疑問で有る。

この他、余り使用された報道を聞かない飛鳥建設のエアーホイス免振技術でも、茨城県の免振試験場で、試験をしたテレビ放映を見た事が有るが、横揺れを吸収仕切れ無いのが現状の陽で有った。

40

更に、橋など、古い橋に使用された三本の鉄製の円柱を使用積載内蔵したコロ免振だが、ゴム免振と揺れ方が少し異なり、同じ方向に揺れるのがコロ免振だけでは全ての揺れを、取り除く事が出来ないのも事実で有る。

本発明の、電磁石反発コロ免振技術。

本発明のコロ電磁石反発免振装置は、鋼鉄製の円柱だけで、地震の縦揺れと横揺れを、吸収出来ない為、円柱のコロ免振部分を、永久鋼鉄磁石に変えてコロ免振の上下の鋼鉄板を、電磁石板に変えて免振装置に乗る建物は、超高層ビルまでの重量は、耐えられる事が、出来るが、地下3階から地下5階などの、超高層ビルの地下構造を、変えなければ成らないのが、事実で有り、鋼鉄柱などと、鋼鉄鉄筋が必要に成る。

50

更に、横揺れを、吸収する為に免振横揺れ吸収金属スプリングと免振支えコンクリートが、他の会社のビル免振構造に無い免振の横揺れ吸収システム装置が、地震の横揺れ対策を、している。

2011年3月29日pm21時3分本日は、ここまでで終わるが、全自動ロボットなども、2008年に既書き上がった著作権も有るが、福島原子力発電所の、進まない原子力処理と原子力を、再復活するまでの日数と費用に対しての新しい安全な湯熱タービン発電を、紹介しなければならない事を考えている現状で有る。

2011年3月30日pm18時54分免振装置とは、ゴム免振及びエアーホイスストにも、必要とされる免振杭は、丈夫で、硬い地盤床で無ければ免振装置の役目が、成され無い為、免振杭は、鋼鉄太鉄筋などが、構造には必要に成り、一度免振装置を、使用した免振床は、100年 10
以上～200年以上免振床が、再利用されるだけで無く建物自体が、100年以上から200年以上建て替えしない建物の構造が、必要に成り、コンクリート劣化防止パネル及び鋼鉄鉄筋などが構造に必要視されるのは、資材の枯渇として、セメントなども、永遠の素材で無いのも、現状に成る。

更に、円柱鋼鉄コ口免振は、故障つまり、コ口電磁石反発免振の自家発電機の電源が、途絶えた場合、最悪の場合は、円柱鋼鉄免振装置と免振横揺れ吸収金属スプリングと免振支えコンクリートによって、地震の横揺れを、幾分吸収して、鋼鉄鉄筋建てコンクリート劣化防止ビルなどの、地震防止装置を、備える事で、自家発電体制の、緊急時でも 20
連続無停止発電出来る、高出力水発電機及び燃料電池の循環式発電機などの緊急発電システムも、必要に成る時代は、超大型発電施設全体を、小型無給油無停止の連続作動発電機が、必要に成るのも、言うまでも無く、これを除けば、地下電気配線ケーブルネットワークに成り、あらゆる地方からの緊急電気供給配線が、必要に成る計算に成る。

従って、コ口電磁石反発免振装置が、完全に電気が、通り続けると、地震の横を揺れを、殆んど吸収して、地震の縦揺れは、免振杭によって、吸収して、コ口電磁石反発免振装置が、100年越えそして、200年越えの鉄筋コンクリートの建物保存に、チャレンジする時代が来た事を、痛感する2011年3月上旬の福島県原子力発電所の地震事故災害の結果を、見て痛感する他社と異なる免振先技術著作権の発明者の増野和夫はそう考えるので有る。

【 0 0 3 7 】

第20の課題解決手段として、図32の説明を始める。 30

図の32に伴って、北海道の泊原発を、思い出していただきたい理由として、原子炉の天上には、爆風などの、原子炉故障によって、放射線が、外に漏れ無い用に、分厚い鋼鉄製の油圧仕切り弁天上式の、原子炉格納型の原子力発電所なのは、テレビマスコミ公開によって、日本国民の多くは知って入る原子力放射線の外部流出防止システム構造の原子力発電所だが、残念な事に、免振構造の原子力発電所で無い為、非常給水装置と非常給水循環装置が、地震に強いグラスファイバー管等の水道管及び循環水の地下貯蓄水タンクなどは、付いて無い為、将来的には、日本海側に、マグマプレートが、アジア大陸及び太平洋側から、動いた場合、万が一の原子力発電所停止と原子炉亀裂事故の場合、原子炉全体の全自動確認の、ライトカメラが、複数必要に成り、非常電源も、必要に成るが、残念ながら、このままで入ると、福島県原子力発電所事故と同じ地震が来た場合 40

北海道の泊原子力発電所の安全神話も、崩れさるのが、事実の為、早急に対策を、行わなければ、北海道経済は、破滅を迎えて終う事に成る。

その為、天井の原子力放射線防止装置は、原子炉停止後の、原子炉冷却機能が、完全に作動しない限り、天井の放射線防止仕切り弁は、閉める事が、危険に成るのも、今回の高温水蒸気の水素爆発事故で、今後の泊原子力発電所の天井仕切り弁の使用の有りかたを、北海道電力の社員教育に成っているのか心配に成る事実の対策を、図32に於いて説明する。

従って、図32に説明する用に、確かに、地下に造られているが、緊急用の水を、入れるのも、道路側溝を使用しても、良いが、電動仕切り弁の著作権先技術は、増野和夫だけで有るが、手動の水門及び油圧水門などの技術も、取り入れる対策と地下の井戸水を、3キロ 50

程離れた場所から、水を引き込むパイプも、鉄管で無い、グラスファイバー管及びプラスチック管等の長い管を、海から船輸送によって、運ぶのが理想に成り、水道管のジョイントが、少ない方が、地震に強い事と、水道管の下には、水道免振杭が必要に成り、千葉県地震事故の場合は、水道管免振杭が必要に成るのは、今後明白に成るが、工事費は、免振杭工法を、取り入れた工事費分だけ、高く付くが、地震によつての水道管破損事故は、少なく成る。

漏電対策説明2011年3月30日pm20時55分ここまでとする千葉県の増野和夫で有る。

過去の原子力の問題点説明

従つて原子炉等以外は、海岸の岩盤まで、掘削している場所は、原子力敷地内に成り、他の給水場所などは、岩盤まで、掘削に成つて無い為、地盤が悪い場所では、地盤改良材によつて、地盤改良材は、コンクリートは、割れる為、無駄に成る為、ゴム溶液とプラスチック溶液と樹脂溶液の混合合成液等の注入路盤改良手段が、考えられる。

10

二つ目の問題点

コンクリート床の鉄筋は、ブロック網鉄筋構造の新しいタイプの床用網構造に成っているタイプは、ブロック網鉄筋接合部分は、完全溶接とボルトナット止め構造にしなければ、地震時鉄筋接合部分から亀裂が、入る事に成る為、接合部分の重視も考え方を、変えなければ成らない。

2011年3月31日am6時46分仕事の為、ここまでとする千葉県の増野和夫。

2011年4月1日am6時24分少しだけ書く千葉県の増野和夫。

今回の福島原子力発電所の欠点が、冷却水だけで、冷やす構造を、窒素発砲スチロールを、二重金属の本来真空構造部分の魔法瓶壁構造部分に、窒素ガス混合合成発砲スチロールパネル等の冷却パネルで有り、固形窒素入り冷却パネルなどの使用によつて、給水冷却する事で、更に原子炉を、冷やす構造にしてなかったのが、今回の福島原子力発電所の冷却システムの欠点で有り、将来的には、マイナス水つまり、マイナス1度から2度の水で、冷却する方法を取るしか無いのも、今回の福島原子力発電所事故の教訓に成り

20

ヘリウム内蔵固形窒素固形複数穴空き冷却物質に、窒素入りプラスチックシートを、ヘリウム内蔵固形窒素固形複数穴空き冷却物質と窒素ガスを、使用した冷風機を使用した冷却水製造装置によつて、福島県原子力発電所の原子炉を、冷やす構造に成る。

2011年4月1日am6時49分仕事の為、ここまでとする千葉県の増野和夫で有る。

2011年4月3日am8時13分休日の為、福島県原子力発電所の対策の著作権技術特許文章を、書く事で、電気代の値下げを、完全に計る千葉県の増野和夫で有る。

30

三つ目の問題点

現在の、排水管は、コンクリート管の場合は、地震によるコンクリート管の破壊破損は、水漏れ事故によつて、地下水への放射線漏れ事故に成っており、この場合、確かに劣化防止排水管技術として、クボタ株式会社の小石粒子入りビニールプラスチック管が有るのだが、残念な事に、地震対策管で無い為、水漏れ事故に成る排水管なのは、コンクリート管と形状は、同じ管に成る為、地震による地盤沈下等によつて、管口が外れる為、地震に不向きに成る。

例えば、プラスチックビニールの厚手の管の欠点が、石油ローリー事故などの、油の流出事故による地下排水管の燃焼事故防止の為に、コンクリート管にビニールを巻いた管形状に、管口を、ネジ式に対して、管口を、ゴムパッキンを、当てて、管口の接合部分に、接着用液を、流し込んで固める事によつて、地震の振動に耐える構造にした新技術管に成る。

40

この他、鉄管及びアルミ管に固形窒素入りグラスファイバー管を、管の内側と外側に被せた劣化防止管構造に対して、管接合部分は、ネジ式に対して、接着式のゴムカバーを取り付ける構造が今後の、放射線の地下水の流出防止対策として、考えなければ成らない事に成る。

四つ目の問題点

現在、福島原子力発電所は、発電所内の水が、放射線除去装置無しで、海に垂れ流し状態なのが、明白に成っているのは、テレビマスコミ報道事実で、明白に成り、現状の、漁業

50

補償は、貝類と魚の保障として、東京電力が、全額賠償しなければ、日本国が、支払うのなら、資本主義企業保護主義国家に疑問を、抱くだけで無く、人権無視の裁判によって、現在、実用新案登録の水発電機などが、発電機の変わりが有る為、弱者国民全員で、国に勝てる裁判を、決行する事を、願う事と、増野和夫は、日本国の全額者金返済と都道府県市町村区的全額借金返済の為に、無料で技術提供すると同時に海外の全ての特許庁に無料の特許提出だけを、切願する事に成る。

五つ目の問題点

現在、福島原子力発電所の、清掃掃除水の、海の放出を、避けた原子力発電所の清掃処理水の、汚染物質の除去装置が、必要に成り、高出力電動モーター仕切り弁を複数使用して、超大型貯水槽全体を、コロ電磁石反発高出力免振装置を貯水タンク槽全体の下に取り付けた構造と、固形窒素内蔵グラスファイバーコンクリート劣化防止枠を取り付けた金属枠防水シートパッキン使用の金属枠貯水槽の内側に、コンクリート枠壁にした錆び止めの貯水タンク槽などが、必要に成り、高出力真空装置によって、汚れた水のゴミだけを、取り除いた放射能水を、高出力放射能返し遠心分離機で、放射能と水を、瞬間に分けて、放射能の濃い水を、専用の金属ドラム缶に全自動で濃い放射能水を専用のドラム缶に詰めて、一時処理するまでが技術確立に成っていなければ成らない。

10

六つ目の問題点

現在、福島原子力発電所の、中の放射能測定装置が、設置されていない事と、放射能度を、テレビの文字放送で公開していない事には、問題点ばかりに成り、例えば、新しく作る原子力発電所内の、放射能測定値のテレビ文字放送公開と原子炉の処理温度の文字放送公開と原子力廃棄物貯蔵タンク室の水温のテレビ文字放送公開が、必要に成り、インターネットで、原子炉内の映像の24時間公開によって、万が一の遅れた原子力処理対応の補助を、今後、残った原子力発電所の日本国民全体の監視管理が、必要視される。

20

六か所村原子力廃棄物一時管理施設の問題点

これからの、原子力廃棄物の監視管理は、国民全員管理体制が、必要に成った事は、原子力委員会などの、国の管理システムだけに、任せないで、危険状態が、国民が分かれば、インターネットを、通じて、原子力管理の是正を、直ぐに公のインターネットマスコミで、誰でも、危険個所の指摘が、出来る管理システムと東京電力の年間所得額の国民公開に成り、名前は、未公開として、東京電力の職員全体の年間所得の公開が、必要に成るのは、今後、原子力発電所に掛るお金が莫大な金額に成る為、注意しなければならない時代が来た事に成る。

30

七つ目の問題点

現在、放射能漏れ防止対策は、北海道の、泊原発に成り、大型の油圧仕切り扉の構造だが、原子力停止後、直ぐに閉めて、高温水素ガス爆発を、起こしてからでは、意味が無く、おそらく鋼鉄製の扉自体が、曲がる恐れが有る為、万が一の水素爆発が、起こった場合の、後の処理が、簡単に出来る構造として、グラスファイバー半円球屋根などで、原子炉の屋根構造として、吹っ飛んだ場合に、原子炉の上を、取り除いて、緊急用の金属板を、被せて放射能漏れを、防止する構造にしたいのが現状で有る。

【0038】

第21の課題解決手段として、図33の説明に入る。

40

図33の、冷却水の取り入れ官の床には、冷却水官床の、免振杭の設置必要性と冷却水取り入れ官の破損防止として、長めのビニール管と長めのビニール管を、二重に止める官は、接着式のグラスファイバーパネルを、半割の部品を、二つ合わせた構造に対して、鋼鉄ボルトに、ビニールプラスチックを、被せた錆び止めボルトナットを使用した長めのビニール管の水漏れ防止対策を、行った官口処理技術に成る。

この他、管台に、強化ゴム管台を、使用して、グラスファイバー官止めキャンバなどが、使用するの、永遠使用構造にふさわしい材質を、考慮した冷却水の取り入れ官構造に成り、コンクリート管は、地震に弱いのが、欠点なのが弱点に成る。

2011年4月3日am10時52分日本企業の豊田と本田といすゞと三菱電機と日立電気と松下ナショナル電気とソニー電気と東芝電気などの中国の特許提出の著作権と特許文章の著作権盗

50

作及び不正競争の中国特許庁確認の為の中国語を日本語に変えるソフトを、買いに出かける為、ここまでとする千葉県の上野和夫で有る。

2011年4月4日pm19時19分消灯の時間まで、少し書く事にする千葉県の上野和夫で有る。

今後、福島県原子力発電所の様な地震事故は、他の原子力発電所で起こる可能性が高い為、給水管及び排水管は、今後コンクリートを、最低でも、塩化ビニール管から固形窒素内蔵グラスファイバー管は、給水用の水を、固形窒素内蔵グラスファイバー管などの、冷却機能の有る地震に強いグラスファイバーパネル管によって、水を冷やす事が可能になり、原子力発電所の冷却水に、適した水を提供出来る。

更に、フロンガスを、シリコン石灰に混合合成した物質に固形窒素を、弱冠混合合成した物質を、円柱のグラスファイバー管の二重パネル管の空間に固形合成のフロンガスを内蔵した合成固形フロンを、内蔵したグラスファイバー二重空間構造のパネル管に合成冷却材を、入れたグラスファイバー管は冷却機能の優れた給水管と排水管構造に成る。

【0039】

第22の課題解決手段として、図35の説明に入る。

図35の、固形窒素入り酸化鉄プラスチック溶液枠または、超薄ステンレス板内蔵グラスファイバー枠は、現在の福島県原子力発電所の放射線のアルファ線及びベータ線及びガンマ線を、外に逃がさない為の対策の組み立て枠になり、超大型クレーンとリモコンロボット等の遠隔操作または、全自動人型ロボットのインプット式の人の音声指示の補助型のロボットでなければ、長引く福島原子力発電所の放射能漏れ事故の壊れた建物全体を、組立型の放射線防止パネルによって、今回の様な放射線漏れの事故対策とするのが、良いと考えるのは、組立が、簡単で速いのが利点で有る。

テレビマスコミの案件で有る。アルミニウムシートを、被せる対策が有るが、風に煽られて切れたりする為、考える必要性有りに成り、アルミニウムシートは、小さな火災の油火災などの、消化用には効果的に成る。

従って、福島県原子力発電所を、仮に囲んでも、現在の水を、追加し続ける冷却方式では、放射能水を、増やす事に成る為、福島県原子炉の冷却方法の説明として、強制冷却用の、クーラー窒素ガスにも、フロンガスを、固形窒素合成炭素に混合合成した複数穴空きブロックに、固形窒素とフロンガスを、混合合成した物質を、ビニールに混合合成した冷却シートを、固形窒素と炭素合成の物質にフロンガスを、混合合成した複数穴空き物質にフロンガスの大気放出防止用の固形窒素とフロンガスを、混合合成した物質をビニールに内蔵した冷却シートを、複数穴空き固形フロンブロックに被せて接着する事で、フロンガスを、大気に放出しない構造にして、窒素ガスを、フロンガスの代わりに冷却ガスとして、使用する事で、クーラー用の冷却装置になり、今回の福島県原子力発電所の冷却水と冷風を、使用する事で、これから暑くなる夏場対策としての冷却水の有り方説明に成る。

更に、フロンガスの代わりに、福島県原子力発電所用の冷却装置として、フロンガスの代わりにヘリウムガスを、使用する事で、冷却温度を下げる事が可能に成る。

例えば、福島県原子力発電所を、仮設の放射線遮断パネルで、放射線防止を可能にした次の作業は、循環水だけでは、冷却仕切れない理由として、活動中の原子力を、急停止した為、原子力核融合物質の温度上昇停止までは、時間がかかる為、他の原子力発電所の発電用の原子炉の再利用核融合物質として、取り扱う事に成る。

2011年4月4日pm21時17分ここまでで、ペンを置く千葉県の上野和夫で有る。

2011年4月5日am5時57分仕事の時間まで少し書く事にする千葉県の上野和夫。

今回の、福島県原子力発電所の場合、稼働中の原子炉を、緊急停止したままの為、原子核の発熱量を、下げる技術が、冷やす事と原子核を、小さく分散して、冷却容器に保存するしか無いのが現状の為、但し、他の原子力発電所で使用する等の解決手段に成る。

従って、例えば、福島県原子力発電所を、囲む事が可能になり、処理後は、放射線蒸気が、原子炉室内に多く発生する為、放射線蒸気を、回収する為のダクト管は、ステンレス管に、錆び止めのプラスチックシートカバーなどの対策が、施されている構造が良いと考えられ、金属枠プールは、冷却材パネル貼り付けの冷却パネル付きの金属枠プール

が、必要視されるのも現状に成る。

この他、強制冷却ガス循環の金属官は、原子炉プールに入れて放射線水を、冷やす為の冷却官は、冷蔵庫の冷凍システムの配管を、長くした冷却管を、更に冷却官を保護する二重冷却管にする事で、長い冷却管でも、冷やす事を、可能にしている構造に成り、発砲スチロールパネルとゴムパネルを、重ねた半割官を、金属バンド止め構造にする事で外気に冷氣放出しない構造によって、冷却時間を、短縮している構造も特徴の一つに成り、今回の場合、冷却水の水量を、減らす対策の説明文章に成る。

2011年4月5日am6時45分仕事の為、ここまでとする千葉県の上野和夫で有る。

2011年4月5日pm18時13分寝る時間まで、少し書く事にする千葉県の上野和夫で有る。

この他、将来的には、原子炉建物の外壁を、二重にして、循環水を、原子炉の建物の屋根毎冷やすシステムによって、原子炉内の冷房システムの使用電源を、下げる対策として、効果が期待出来る水循環式の建物全体を冷やす事で、冷房費を節約する方法に成る。

【0040】

第23の課題解決手段として、図36の説明に成る。

図36の、原子炉室の足場の浸水した放射線入り水から、作業員を守る為のステンレス薄パネル内蔵アルミニウム足場は、持ち運び軽量タイプ構造の滑り止め構造の足場と水中ポンプの配管取り付け口など、放射線防止の軽量足場の下には、ゴムパネルなどの装置安定設置した緊急時に使用する放射線防止装置。

【0041】

第24の課題解決手段として、図37の説明に成る。

図37の、放射線防護ゴム長靴は、超薄アルミニウム板と綿入りゴムとビニールゴムの三重構造のゴム長靴は、超薄ステンレス板構造の靴より、軽量にしているが、アルファ線とベータ線は、防ぐ事が出来ても、ガンマー線は、防げない為、重く成る長くつしか対応出来ないのも、考え物に成りそうで有る。

【0042】

第25の課題解決手段として、図38の説明に入る。

現在の、福島県原子力発電所内の原子炉の作業に当たる場合、アルファ線とベータ線は、雨合羽にガムテープで、防ぐ事が出来ても、ガンマー線の被爆量を、減らす為にアルミニウムシートを、雨合羽に内蔵した放射線防止服などが、考えられるが重い為、世界で一番軽い木材灰入りテترون系に、ステンレス細糸を、木材灰入りテترون系に内蔵した糸で編んだ服などは、放射線のガンマー線を、弱冠防止する事を、期待した超軽量の金属糸の説明に成る。

この他、木材灰入りプラスチックビニールに超薄ステンレス板を、内蔵した雨合羽は、超軽量の金属入り雨合羽に成るが、未来は、おそらく放射線防止服を、普段から着る時代が、来るとしたら、原子力発電を、続行するとしたら、何らかの対策として、普段から気構えが大事と考えるしか無いのかとふと考えます。

この様に、放射線防止服がアルファ線とベータ線は、防げても、ガンマー線を、完全に防ぐには、ステンレスパネルを、体に纏わなければ成らないのも事実に成る為、放射線量を、弱冠減らす事の出来る放射線防止服に成る。

従って、放射線防止服及び放射線防止雨合羽で、放射線を防げない分の対策として、水に浮く超薄アルミニウムステンレス板を、内蔵した浮遊用の発砲スチロールウレタン素材のパネル板に、放射線防護板固定ヒモ付きの放射線防止板は、ベータ線被爆を減らす事を、目的とした装置に成る。

【0043】

第26の課題解決手段として、図34と図39の封書は、北海道知事宛てに、著作権発明日の確認と国と都道府県市町村区的全額借金返済の為の特許提出に必要な著作権発明日の特定は、郵便物受理書の公開必要性から、著作権発明日特定の証拠図面に成り、原子力発電に因る電気料金の値上げを、防ぐ装置に成る。

【0044】

第27の課題解決手段として、図40の北海道知事宛てに出した福島県原子力発電所の急速冷

10

20

30

40

50

却技術を、説明した葉書に成り、マイナス一度の流動冷水を、原子炉の冷却水の循環水を、使用する事で、原子炉の冷却水の温度を徹底的に、冷やして、最低10度管理など、現在の、放射線廃棄物の保管温度が、高い為、長い年月に渡って、放射線を、30度近くで、保管すると、微量の放射線が、漏れて蓄積するおそれが有るのは、言うまでも無いが、プラス2度からプラス10度の放射線水の管理を長年行っても、弱冠の水蒸気が発生する事も有るのは、沸騰しない風呂水38度でも、大量の水蒸気が、発生している事に気が付かれる通り、水の蒸気化は、マイナスでも、蒸気化するが、蒸気発生量が少ない為余り、気が付かないのが、現状で有る。

今回の、福島県原子力発電所は、緊急処置として、水を使用して、最終的に海水を、使用する事態に成り、放射線廃棄物水を、増産しても原子炉を、冷やさなければ、放射線放出活動を、弱める事が出来ない結果、水蒸気の超高温水素爆発を、起こす事に成り、強制排出による超高温水素ガスの原子炉内の強制排出装置も無く、緊急発電装置が、燃料使用等の、緊急発電装置も、無い事に気が付くのですが、原子力発電所の初步の設計ミスに成り、今回の水蒸気超高温水素爆発を、他の、原子力発電所で、起こして貰いたく無い為、無害無給油の高出力水発電機及び循環式の無給油の燃料電池発電装置が、用意出来ない場合は、超小型の軽油補助タンク付きの軽油のハイブリット発電機を、本田技研自動車工業に依頼して、緊急用のハイブリット発電機などを、緊急用として、用意する等の対策が必要に成り、燃料電池発電機などでも、緊急時用として、超小型の水素製造装置を、設置する事で、緊急時の電気は、賄えるが、特許権使用料の契約などは、必要に成るが、東京電力と異なる東京ガスの燃料電池ガス発電機が、設置されていないのも、疑問視するしか無いのも、事実で有り、北海道知事宛てに、出した技術は、超大型冷蔵庫の冷風装置の冷却ガスのフロンガスから、ヘリウムガス転換で、冷却冷風装置が、仮に作れるが、問題なのは、冷風装置の送風口の氷の付着等に注意する事で、簡単に冷風装置が、出来る事と、大型冷房車の改良タイプを、数拾台用意するだけで、冷風装置は出来上がるのですが、原子力開発機構等の個人的考えだけに走らず、広く国民から、声を聞く事も、大事な事で有り、庶民全体の著作権保護も、必要になるが、原子力の安全を、完璧に国民全体と話し合っただけで安全にするのが今後の課題だと言える。

最終の第27の課題解決手段説明。

国の最終決断の東京電力の原子力発電所の賠償と原子力発電所を作らない場合の説明。従って、福島県原子力発電所の賠償によって、東京電力が潰す事を、国が決めた場合の発電装置の対策案として、本発明の新しい原子力発電所の原子炉部分を、軽水素トリチウム電子酸素水の循環型の燃料電池発電機の別名の、高出力水発電機の電気エネルギーを、使用して、沸騰水のタービン発電機より、熱効率の良い軽水素酸素水を、タービン回転のスクリー官と高出力ダイナモ新技術などで、100度より低い電気熱で、沸騰水を作る事を可能にして、通常ストレート官を、スクリー官に変える事で、沸騰水の100度近辺の沸騰水スピードを、上げる事の出来る新技術によって、現在有る火力発電所に応用した場合、今まで以上のタービン沸騰水回転作動のダイナモの発電量を増やす事の

出来る装置に成り、今後の電気不足の対処として、循環燃料電池発電機の新技術を使った電気熱電気火力沸騰水発電所等の、発電量を、現在以上に増やす事を、可能にする事が出来る技術が、新原子力発電技術の沸騰水に使用する水を、通常の水から、軽水素酸素水に変える新技術とストレート官を、スクリー官に変える技術と通常ダイナモを、高出力ダイナモ新技術の、軽水素トリチウム電子入り圧電素子磁石体の別名の高出力圧電素子を、通常ダイナモの中間部分に内蔵させた高出力ダイナモの新技術によって、電気熱火力発電所が、可能な事を、大学著名者などが、原子力に変わる低コストの発電システムを、理解していただきたい事と、燃料電池の液体マグネシウムの水素と酸素の瞬間吸収物質の世界特許の発明者を、NHK及びテレビマスコミに招待して、今後の無害無給油発電装置の液体マグネシウムの特許使用料金など、公の場の公開説明をする事と

東京ガスの、水素と酸素の瞬間吸収発電物質の使用料金の公開説明を、NHKテレビとテレビ各社で行う事で、国民により安い電気を、供給出来る東京ガスの水素と酸素の瞬間吸収物質の特許使用料金の支払い説明などを、NHKテレビ局と他のテレビ局が、情報公開

10

20

30

40

50

をする事で、より安い電気を、国民に提供する最短の近道なので有る。

【発明の効果】

【0045】

上述したように本先知的所有財産の原子力発電処理管理まで、海外技術を使わないで、発電及び原子力廃棄物処理まで行えるため、安い価格の電気を提供出来る。

【0046】

また、地下原子力廃棄物処理全自動ロボット機械技術には、地上の全自動機械ロボットの技術利用が、かなり見込めるため、日本経済の発展に大きい効果をもたらす事が明らかで有る。

【図面の簡単な説明】

10

【0047】

【図1】図説電気・電子用語事典140ページ現在までの軽水形原子力発電説明図。

【図2】電子熱核燃料原石ウラン核融合臨界温度電子調整の加圧蒸気タービン発電機図説。

【図3】地下天上ライトカメラ固定GPS全自動作動放射能廃棄物処理ロボット機械説明図。

【図4】地下天上ライトカメラ固定GPS全自動作動放射能線水処理ロボット機械説明図。

【図5】地下天上ライトカメラ固定GPS全自動放射能線エアー清浄回収処理機械説明図。

【図6】電動仕切り弁説明図。

【図7】原子力廃棄物処理回収貯蔵ドラム缶装置説明図。コメント2008年6月23日昼PM12時5分39秒昼飯にする美馬牛カンキチ2008年6月23日昼PM12時59分48秒カレーの仕込みを終えゴミ空き缶など片付け二日分の食料確保、大雪山も見えて来た北の空は快晴風の精で有ろう美馬牛カンキチ。

20

【図8】高圧電気人口ダイヤ電気カット減圧電気装置。

【図9】人口ダイヤ筒パネル枠装置の放射線液体透明シリコン混合内蔵パネル説明図。

【図10】新型電子熱核燃料ウラン臨界温度電子熱調整の酸素加圧スクリー蒸気タービン発電機の図説の説明図。

【図11】図説電気・電子用語事典140ページの軽水形原子力発電説明原本図。

【図12】穴空き放射能線取り除き放射線返し装置及び放射能線処理説明図。

【図13】北海道庁広報広聴第3-37号の2001年5月2日~5月7日までの先発明考案の先知的所有財産の原本郵便物北海道庁受理書。

30

【図14】2001年5月2日美馬牛市街地自宅で増野和夫が書いてあった北海道民財産の当初、永久発電機の固形水素及び液体マグネシウムの水の電熱線気化によって、発電する構造を書いて有った説明図原本の写し図で有る。

【図15】2001年5月2日美馬牛市街地自宅で、増野和夫が既に、現在の水発電機の永久発電機は、既に考案して有り真空装置と電熱線で水を気化酸素と気化水素に瞬間に変えてコンプレッサの反対ファンの強制エアー吸入装置と固形水素にわずかな透き間を作って、水素と酸素に瞬間的に酸素を取り出せると考えて書いた図で有るが、何処まで書いても、燃料電池発電の意味にしかないばかりか、水の瞬間気化に対しては質量が同じため、酸素だけでも、残らず発電に終わってしまった図説で有る。後の放射能線除去装置すなわち、放射線は、堅い物質に跳ね返り、水などには融合する特徴が有り、後の固形水素の中身が大理石又はガラスの粉などにしなければ、すべて再び発電してしまい水になると言う結果しか生まない事実を変える為の水の瞬間気化装置の説明図原本の写し図で有る。

40

【図16】2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、当初マスコミで、原子力廃棄物処理問題に対して騒いでいた頃で、有り国の全額借金及び都道府県市町村の全額借金を子供達または、これから生まれてくる子供達に借金全額を払わす事を、国会議員が、テレビ画面上で発言したため、放射能貯蓄そして、保存そして、再利用の決まって無い頃、原子力廃棄物の処理貯蓄に対して説明文書図の北海道庁保管の先発明先考案の先知的所有財産の原子力廃棄物処理保管技術を説明した文章図写し図で有る。

【図17】2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、原子力廃棄物缶に対して錆びな

50

い構造のアルミニウム合金製の説明で有り、地震による原子力廃棄物缶の対策として、アルミニウム布で巻いたりして、クッションの役目など、ロボット機械既に全自動ロボットを導入予定で有った事の説明文章図の写し図で有る。

【図 1 8】2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、原子力廃棄物缶の取り扱い処理説明に対してカニ型ロボット機械などロボット機械を修理するロボットシステムなどの先考案設定して有り、強制放射能洗浄装置、水で洗い流して別の地下などの放射能線水の仮の貯蓄水槽に溜めて処理する予定の放射能線強制洗浄6段階装置などの使用予定を書いた文章図で有り、24時間モニター監視システム故障に対応する部品交換全自動ロボットリモコンロボットなどの予定して有った先考案説明文書図で有る。

【図 1 9】2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、原子力廃棄物缶を貯蔵再利用するため保管する地下の地層地盤説明、税金説明、テロロボット機械侵入防止対策のトンネル構造と金属は、鋼鉄使用で行う事などの地下原子力廃棄物の貯蔵管理説明の文章図の写し図で有る。

【図 2 0】2002年9月26日北海道庁広報広聴第3-183号で有り2002年9月24日などの圧電素子4電子磁気分割電気を使用した核燃料ウラン電子熱臨界温度発電方法などの先発明先考案及び先知的所有財産の郵便物受理書。

【図 2 1】2002年9月24日栃木県真岡市下高間木でウラン鉱石から電子熱臨界温度電子熱調整技術を使用して発電する方法の説明文章図で有る。

【図 2 2】2002年9月24日栃木県真岡市下高間木で、放射能水を、水と放射線に分ける技術を説明した文章説明図で有る。

【図 2 3】平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から増野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都日本消費者連合殿へ送ったゆうパック領収書。

【図 2 4】平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から増野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都NHKふれあいセンター殿へ送ったゆうパック領収書。

【図 2 5】平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から増野和夫の先知的所有財産の確認の為にアムネスティインターナショナル支部殿へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書。

【図 2 6】平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から増野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都日本共産党委員会志位和夫殿へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書

【図 2 7】平成15年3月末日岩手県胡四王簡易郵便局から増野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都社民党本部土井高子殿へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書

【図 2 8】平成16年1月4日旭川市中央郵便局から増野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都民主党本部民主党党首殿へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書。

【図 2 9】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊によって、放射線水の未処理水を、逸早く処理する為の高出力技術を、積載内蔵した原子力放射線水を、瞬間にドラム缶処理する為の、放射線水を、処理する為の高出力遠心分離機を積載内蔵した概略説明図。

【図 3 0】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊によって、原子力発電所内の放射線を、原子力施設内に一時的に、閉じ込める装置として、人手と手間を、少なくする事で、放射線被爆事故を、防ぐ事を目的とした仮設防護グラスファイバー組立枠と酸化鉄入りプラスチック溶液を、放射線パネル構造にした組立式の放射線防護枠の説明図。

【図 3 1】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊によって、原子力発電所内の地盤亀裂によって、放射線水の流失事故を、二度と無くす為の、原子力施設それぞれに、世界初の、施設全体を、電磁石反発機能によって、施設全体を、浮かす技術を、説明したコロ電磁石反発免振技術の免振杭を含めた説明図。

【図 3 2】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊事実を、受けた対策処置例の、原子力発電所の爆破事故対応した地面より低い位置に、原子力発電所自体を、設置して、原子力発電所の緊急冷却装

10

20

30

40

50

置官と放射線施設を、守るコロ電磁石反発免振装置と地盤改良材の投入構図と万が一爆風によって、飛び散った天上の仮修復の、緊急時鉛板クレーン吊用のロボットクレーンの投入構図等の、放射線を、極力外に出さない為の処置を説明した図。

【図33】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊事実を、受けた対策処置例の原子力施設を、冷やす為の給水管及び排水官を、地震から守る為の配管防護処置例を説明した概略図。

【図34】平成23年3月25日テレビマスコミと国の原子力機関の事故対応の遅さによって、被害拡大を懸念して、北海道知事に著作権先技術説明図として、北海道知事に確認して戴く事によって、他の者からの、莫大な特許料金請求と莫大な著作権料を、東京電力に請求する事で、電気料金の大幅アップを、防ぐ為の対策図を、北海道知事に提出した時の証拠の送付封筒の写し図。

【図35】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊事故を、受けた対策処置例の中の高濃度放射線水を、放射線処理ドラムに入れて保管する前の高濃度放射線を、処理する為の処理を説明した図。

【図36】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊事故によって、放射線被爆事故を、少なくする為の、放射線水のカバー金属足場の構造説明図で、有り、高濃度の放射線水から、人を守る為の、最低限の処理処置を、説明した図。

【図37】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊事故によって、放射線被爆事故を、少なくする為の、放射線カバーを弱冠取り入れた軽量を重視した超薄アルミニウム板と綿入りゴムとビニールゴムを、構造とした放射線被爆防護服の、装置の構造説明図。

【図38】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の崩壊事故によって、放射線被爆事故を、少なくする為の、放射線水から、幾分、放射線を浴びる事を少なくする為の放射線水に浮く放射線防護板の構造説明図。

【図39】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、原子力発電所の復旧作業に携わる人の放射線被爆を少なくする為の装置を書いた著作権先技術説明図を、北海道知事に送付した封筒の写し図で有り、特許料金と著作権料金が、莫大な金額に成らない用に対策した著作権説明図の送付封筒の写し図。

【図40】処理平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の放射線核融合物質を、永遠にする有一の冷却方法の手段の簡略文章にした著作権文章を、北海道知事に連絡した時の葉書著作権文書図

【図41】平成23年3月上旬に起きた東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害によって、福島原子力発電所の電源火災を、防ぐ方法を説明した北海道知事送付の葉書説明証拠図。

【図42】国会で、東京電力を潰す事と原子力発電所の追加建設を、取りやめた場合の、追加発電物質資源の一切必要としない電気電子熱火力発電所の構造説明図。

【図43】2011年4月9日北海道知事へ国の全額借金返済と都道府県市町村区的全額借金返済の為に考えた電気電子熱火力蒸気タービンW発電装置の図面を、北海道知事に送付した時の事実証明証拠図。

【発明を実施するための形態】

【0048】

以下、本発明の試作実施の形態を図1~図12に基づいて説明する。

【0049】

図1に於いての説明は、図説・電気・電子用語事典・発行所・実教出版株式会社のP140の軽水形

原子力発電図を模写した図で有る。

【0050】

図2に於いて電子熱で核燃料原石等をゆっくり暖めて、臨海温度まで持って行く技術は、2

10

20

30

40

50

002年9月24日栃木県真岡市下高間木で、先知的所有財産として先発明考案された原子力発電方法の原子力廃棄物が、少なくても済む原子力発電方法で有る。

そして、2002年9月26日の北海道庁広報広聴第3-183号は、北海道民財産の郵便物受理証明書で有る。

図2の(1)は、電子発生放射装置で有り、(2)は、核燃料原石で有り(3)は、二重冷却水加圧層装置で有り、その他は全て図1と同じで有る。

【0051】

図3に書かれて入る放射能廃棄物の地下室GPS全自動放射能廃棄物アルミニウム亜鉛合金官の処理ロボット機械構造説明を始める。

そして、(15)は、無害無給油連続作動発電機の水発電機で有り(9)チューブなしゴムタイヤをダブル制御モーターの2連結以上モーターとレールモーターを一つのモーター軸ダブル制御駆動出来るモーターを使用しているのも特徴で有る。

更に、図3の原子力廃棄物官処理ロボット機械は、油圧を一切使わずレールモーター電気ホイストを使用しているのが特徴でも有る。

従って、(6)レールモーター第一ホイストで有り、(7)レールモーター第二ホイストで有り(8)は、レールモーター第三ホイストで有り、これらホイストは、複数電磁石連続磁極切り

替え装置のインバーター磁極切り替え装置によって、作動制御電気ホイスト装置で有り、走行モーター及びレールモーターホイストは、油圧機器制御と異なり1センチ以下のモーター制御も可能で有る。

コメント2008年6月21日PM21時5分34秒からビデオ休憩と野菜炒め混ぜ御飯美馬牛場野更に、放射能廃棄物の地下GPS全自動放射能廃棄物官処理ロボットと放射能飛散回収処理ロボット機械のセンサー説明を始める。

図3の原子力廃棄物処理ロボット機械は、(4)官滑り止め装置に(70)の金属センサー超小型カメラは、金属センサー確認とカラー色ダイオード色確認認識が出来るカメラ確認認識出来る装置で有り、(84)は天井固定GPSライトカメラ装置で有り地上のGPSの考え方で、地下固定スロー電波発信受信装置によって、原子力廃棄物処理ロボット機械装置及び原子力放射能飛散回収処理ロボット機械の地下GPS地図によって位置確認認識が、(84)の天井固定GPSライトカメラ装置によって原子力廃棄物処理ロボット及び原子力廃棄物放射能処理ロボット機械の電波地図位置確認認識が出来る装置で有る。

この他、カラー色ライトライン装置は、カラー色のライト光をロボット機械の周囲から地下室の壁に向かってカラー色ライトライン光を放つ事によって、カラー色ライト光の距離で、地下室のロボット機械それぞれの位置を壁から幾らの距離なのかを、カメラライトライン色の距離によって壁からの距離位置を、全自動カメラ距離計算出来るカメラダイオードカラー色ライン光認識確認カメラ装置で有る。

更に地下地図を備えたロボット機械が更にスピーディーに動くために電波センサーと電波の跳ね返りを受信して機械位置を壁から幾らの距離で有るか全自動電波センサー跳ね返り電波受信読み取りで、壁など障害物に当たらずに走行出来る原子力廃棄物ドラム官処理ロボット機械と原子力廃棄物飛散放射能回収処理ロボット機械で有り、テレポーテーションカメラ物体及び人及び動物のカメラ画像形状認識確認全自動作動が出来るカメラ技術によって、地下室の物体のカメラ画像形状データを、全てデータ入力しておく事で、物体の確認認識までもが、出来て地上の非常事態連絡に対しては緊急連絡を全自動で行うライトカメラ装置で有る。

更に地下原子力廃棄物処理ロボット機械それぞれは、地上から地下のライトカメラと無線リモコン装置によって、リモコン操作も出来る原子力廃棄物処理ロボット及び原子力廃棄物放射能処理ロボット機械全自動作動説明で有る。

最後に地下地図をデータ入力再生するのは、表裏両面のCD装置で有り、モーターは、超小型レールモーターを使用して、省電気エネルギー消費装置に圧電素子4電子磁気分割装置

を採用しているのも、特徴の一つで有る。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 2 】

図4及び図12の飛散放射能水回収及び放射能全自動分別装置説明を始める。

図4の放射能処理ロボット説明は、レールモーター第四ホイストは、ライトカメラ全自動確認認識装置によって、放射能廃棄物を水で洗い流し地下用水路タンクに集められた放射能水を(78)の放射能バキューム装置で、放射能水を吸い取り(32)の第一放射能水処理タンクへ(79)の水位センサーが、満水を示すと(27)電動仕切り弁装置をシステム全自動で閉め更に(78)放射能バキューム装置を止め(76)穴空き放射能取り除き放射能線返し装置それぞれの(74)レールモーター装置を作動させ更に(24)真空装置を作動させる事によって、(32)第一放射能水処理タンクの空気ゼロまで、空気を抜く事で、放射能水は、瞬間気化すると同時に瞬間気化した物質を(21)放射能気化水物質の水複数シャワーカーテンによって、更に(68)の放射能センサーによって、(21)の放射能気化物質の水複数シャワーカーテン装置が作動する構造になって入る。

10

従って、(76)の穴空き放射能取り除き放射能線返し装置の説明は、針の穴程のアルミニウム円形状の板に複数穴が空いて入る装置は、モーター高速回転し(24)真空装置の吸引モーター力で、低温の放射能水つまり、(73)の穴空き固形水素冷却ガス官パネルによって、放射能水を低温の状態にしなければならない理由は、低温状態ならば、放射能の活動が、ゆ

っくりしている為の理由によって、(73)穴空き固形水素冷却ガス官パネルは、(57)の冷却冷蔵装置によって、(32)の第一放射能水処理タンクを常時0度~マイナス1度に保つ説明は

20

、原子力廃棄物の放射能線の動きを止める為である。

更に、(24)真空装置によって、(32)の第一放射能水処理タンクの空気を全て抜く作業によって、既に回り続けて入る(76)の穴空き放射能線取り除き放射能線返し装置に気化した酸素と水素だけをくぐり抜かせる為の(76)穴空き放射能線取り除き放射能線返し装置で有る。

コメント

2008年6月22日(日)AM8時55分45秒美馬牛市街地晴れ間が出て来て入る大雪山は、曇りこれから曇り空は、取れて来る今日も自衛隊演習ここまで、振動波、磁波衝撃の圧電マグマ磁波そして北海道らしい朝でも有る。北有建機の仕事は、もうない恐らく9月~10月まで、仕事がないのも現状で有る。

コメント

30

2008年6月22日(日)昼PM12時3分53秒昼飯にする美馬牛市街地晴れで有る。

2008年6月22日(日)昼PM12時35分8秒大雪山白い雲そして晴れ北は、雲がない美馬牛カンキチ

図4の補助説明拡大図12の、(76)の穴空き放射能取り除き放射能線返し装置及び(75)穴空き固形水素冷却ガス官パネル止め金装置は、放射線の動きを冷却する事で、酸素と水素の空気の流れを押さえ更に、放射線自体の動きを押さえる事で、(76)の穴空き放射能取り除き放射能線返し装置によって、酸素密度及び水素密度及び放射線密度は、知り得ている知識では、酸素密度及び水素密度より、放射線密度が、大きいと予測されるため、(74)レールモーターで、

超高速回転で(76)の穴空き放射能線取り除き放射能線返し装置の穴からは、酸素と水素が

40

、出てくる事が、予測されまた、一番最初の穴空き固形水素冷却ガス官パネルに放射能線が止まる計算になる。

放射線は、固い物体には跳ね返る性質が有り、逆に液体及び気体には融合する性質が有るそのため、穴空き固形水素の場合は、固形水素の中身は、炭素などの、放射能線が通らないフィルターガラスの粉と炭素粉合成フィルターまたは、大理石の粉フィルター又は原子力

廃棄物のウラン物質を取り除いたただの石くずなどの固形水素つまり、液体マグネシウムと炭素合成の長方形物質の中央に入れる物質説明が、放射線を通さない固い粉状の物質であり、水に濡れても大丈夫で有り、水に濡れても縮まない固い粉の物質で有る事である

50

。

その上で、空気を通す物質でなければならない。

そのため、穴空き固形水素は、無数の針穴が空いたアルミニウムパネルの上に炭素と液体マグネシウム合成の複数の針穴が空いた正方形物質パネルで有り、中央は、放射線を跳ね返す粉物質例えば大理石の粉又はガラスの粉などを入れて上蓋は、大理石粉及びガラス粉がこぼれたりしない金属網で蓋をした空気だけを通す事を目的とした穴空き固形水素冷却ガス官パネル説明で有る。

上記説明の続き説明。

放射能センサーでまだ放射能線が混ざってる気化酸素及び水素は、(63)の第二放射能線水処理タンクの上に取り付けられている(21)の放射能線連続水分別機によって酸素と水素融合の空気中の放射能線を洗い流す機械システムだが、放射能線センサーが反応しない場合は、(33)の第三放射能線処理タンクへ(64)の穴空き固形水素固形液体マグネシウム発電装置によって再利用の水になる原子力廃棄物放射能線取り除き回収処理装置の放射能線の処理方法説明である。

従って、濃度の高レベル放射能は別のドラム官または図9の放射能線液体シリコンの人口ダイヤ筒パネル化する事としてる。

コメント

2008年6月22日PM13時56分28秒久々に風呂に入る美馬牛カンキチで有る。

2008年6月22日PM14時36分54秒風呂入り美馬牛晴れの日知的所有財産書き美馬牛カンキチ

【 0 0 5 3 】

図5の説明に入る。

図5の放射能センサー反応によって(44)水発電機3は放射能センサー作動して(37)放射能エア吸収モーター(36)複数放射能エア清浄噴水装置の水補給の為に(42)の給水ポンプ1

及び(57)の冷却装置2が、作動して(35)の電動仕切り弁6を作動させて、更に(38)の電動仕切り弁4を開き更に(39)の電動仕切り弁5を開き(67)の第四放射能線水処理タンクの(58)水位センサーの反応によって図12の(76)の穴空き放射能取り除き放射能線返し装置を(74)レールモーターによって作動回転させ更に(73)の穴空き固形水素冷却ガス官パネルを作動させて、(69)の放射能センサーによって、放射能反応が有るまで、放射能線水から、水だけを取り出す事を続ける装置で有り、(69)の放射能センサーが濃度の濃い放射能線水値

を示した時点で、放射能線水の別容器に全自動で保管される放射能線水の全自動処理で有る。

そして、放射能の入ってない気化酸素と気化水素融合体は、(65)の真空装置作動と(66)の穴空き固形水素固形液体マグネシウム装置に瞬間吸収発電され、放射能線の入ってない水だけが残る。

そして、この水は、(36)の複数放射能線エア清浄噴水装置の水として全自動使用される。

。

更に、放射能線の濃い水の放射能は、放射能濃度を一定調整して、図9の(60)人口ダイヤ筒パネルの中に入れる弱放射能線混合液体シリコンパネル材に放射能線再利用として、使用する事を目的としている。

コメント

コメント

2008年6月22日PM15時59分33秒競馬テレビ10分程見る美馬牛市街地少し風が出て来ている。

。

今日こそは、原子力廃棄物処理再利用を書き終えなければならない。

【 0 0 5 4 】

図6の説明に入る。

図6の説明として、小さなモーター電動仕切り弁装置で有り、(45)は、電動仕切り弁モーター

ター1そして、(47)は電動仕切り弁の弁装置で有り、(46)は電動仕切り弁カバー装置で有る。

従って、この(45,46,47,)の電動仕切り弁装置は、図3及び図4及び図5及び図12の原子力廃棄物の放射能線水の処理機械の全自動システムを可能にするための大事な小さなモーター電動仕切り弁装置(45,46,47,)で有る。

更に、図10の最新の技術を入れた原子力発電の電子熱制御酸素加圧蒸気スクリータービン連続圧電素子内蔵ダイナモ連続回転作動発電機の酸素加圧圧力温度調整の(45,46,47,)の電動仕切り弁装置使用並びに、タービンを回した後の復水器を使用しないで蒸気発生機に戻す場合の蒸気戻り官超小型ダイナモ発電は、復水器の変わりの蒸気スピードを抑える為の、蒸気戻り官超小型官プロペラ軸発電方法の紹介でも有る。

ただし、官自体は、二重構造として、緊急冷却の場合は冷却空気で、冷やしてから水で冷やす方法を取る。

理由は、蒸気官は鋼鉄官でも、常時水又は蒸気を通る事で、摩耗劣化するため、通常は、内部の蒸気官保護二重構造官としている。

【 0 0 5 5 】

図7の説明に入る。

図7の説明として、(49)原子力廃棄物ドラム缶説明で有る。

現在使用されている原子力廃棄物缶は、鉄製の為錆び安く原子力廃棄物自体が水分を多く含むため、原子炉廃棄物処理施設の換気を良くしても、原子力廃棄物缶の内側から錆びて原子力廃棄物漏れ事故になるのは、原子力廃棄物缶を変えない限り必ず水分の多い原子力廃棄物の内側から錆びる結果は言うまでもなく鉄は錆びるの答えで有る。

鉄にする場合は、鋼鉄板ドラム缶ならば重い変わりに幾らか錆びるのが長引く、この場合錆び止め材を原子力廃棄物に入れる方法を取れば、原子力廃棄物は更に増える結果になる。

そのため、先知的所有財産のアルミニウム亜鉛合金の少し厚めのドラム缶使用が望ましく、原子力廃棄物缶の処理専用のロボット機械も必要視されるのは明らかである。

コメント

2008年6月22日PM16時55分31秒風呂の残り湯でつけ洗い洗濯美馬牛市街地晴れ大雪山薄曇り風は強しどうやら北から南へ吹いてる様子で有る。残り説明書き続ける美馬牛カンキチ

図7の続けての説明に入る。

すなわち、鉄のドラム缶の放射能廃棄物使用は、長く使用すると危険な状態になるため、避けなければならない。

そのため、原子力放射能線廃棄物は、図7に掲げるアルミニウム亜鉛の合金板を使用した(49)の原子力廃棄物ドラム缶または、アルミニウム亜鉛鉄の三種類合金板のドラム缶使用が、望ましく考えられる。

そのため、(49)の原子力廃棄物ドラム官は、中央が細いドラム缶構造にして、図3の(5)缶挟み装置付きのロボット機械などが(49)原子力廃棄物ドラム缶などを挟んだ時に(49)の原子力廃棄物ドラム缶が、破損しないように(51)のアルミニウム補強クッションアルミニウム接着テープを巻く事によって(49)の原子力廃棄物ドラム缶に直接の衝撃波を避けるための工夫で有る。

そのため、(49)の原子力廃棄物ドラム缶の底の衝撃を抑える為に、(59)衝撃吸収ゴムナット蓋装置によって地震などの振れ対応を行うそのため上ぶたも(59)の衝撃吸収ゴムナット蓋装置が取り付けく。

この場合、ゴム蓋劣化防止のため強化プラスチック固形窒素ゴムなど又はケイ素及びヨウ素及びフッ素及びホウ素の燃えない建材ペーパーを(59)の衝撃吸収ゴムナット蓋装置に接着する事で、(59)の衝撃吸収ゴムナット蓋を燃えづらい構造にしなければならないのは、テロ対策の一つと言える。

更に、(49)の原子力廃棄物ドラム缶の地震の揺れ又は振れによつての(49)の原子力廃棄物ドラム缶の転倒防止の為に(50)の非常のロボット機械吊り金具装置で有り、地震揺れ対

10

20

30

40

50

策または振れ対策の為に壁に設けた取り付け金具に(50)のロボット機械吊り金具装置一つ一つを固定して置く事で、地震による転倒防止策としている点で有る。

更に、(49)の原子力廃棄物ドラム缶に、原子力廃棄物を入れる場合蓋を少し大きくして有る。更に補助的の小さなナット蓋が、二つ(48)の蓋に取り付く構造で有り、蓋が三つ取り付け

く構造になる。

理由は、作業効率の時間短縮で有る。

更に、作業をしやすくする事を目的としている。

【 0 0 5 6 】

図8の説明を始める。

図8では、原子力発電所及び水力発電所の高圧電気を減圧する場合、電気抵抗を掛けずに高圧電気を下げるために、人口ダイヤつまり、ガラス炭素の超高圧圧縮技術による人口ダイヤ

ヤを図8のように先を刃の用にとがらかせた人口ダイヤ絶縁体を使用してプラス電気及びマイナス電気のプラスならプラス一本の配線の2等分に位置する部分に人口ダイヤカッター刃を当ててプラスならプラス電気配線のプラス電気2等分化をする装置で有る。

従って、マイナス電気に対しても同じで有る。

注意事項説明。

使用に当たって、注意しなければならない点は、発電する電気送電量を一定にしなければならないそのため、一定量発電方法が、確立した場合のみ、つまりタービン軸と圧電素子内

蔵のダイナモ装置に大型のレールモーターを取り付けてダイナモの回転作動数を一定に維持した場合の発電方法では、発電される電流量が一定の為、他の発電量が、一定されない、発電システムでは、ダイナモモーター補助発電を行い一定電圧にする方法なども有る。電気の発電方法が、改善されるならば、電気抵抗器を使わない電流量分割が可能になる。

コメント

2008年6月22日PM18時58分どうしても、高圧電気の解けない圧電素子体への挑戦として、あらかじめ鋼鉄永久磁石板または、蓋付きの別々の鋼鉄永久磁石蓋付き箱磁石を容易して圧電素子磁石を入れて蓋をして更に高圧縮掛けた鋼鉄圧電素子永久磁石が、高圧電気に耐えられる場合使用する事して、現在圧電素子に変わる電気抵抗取り除き装置思案中で有る。対策として、高圧電気を、人口ダイヤ電気カットで、100ボルトまで、電気カットし続けここで、圧電素子電子磁気4分割装置を使用して、電気抵抗を取り除いた複数の電気を束にし

て改めて送電する方法で有り、電気抵抗電気は、軽水素ダイオード熱電気再発電装置によって、再び熱電気の再利用化になる。

この方法で、電気送電した場合は、放電する電気が少なくなるため、電気エネルギーの無駄のない使用方法だが、広い地下施設などが必要視される。

【 0 0 5 7 】

図9の説明を始める。

図9は、(60)は人口ダイヤ筒パネル図で有る。

現在、原子力廃棄物が処理しきれない現状を踏まえて、原子力廃棄物の放射線の安全で子供でも使用出来る弱放射線の再利用方法の説明をする。

図8の(60)の人口ダイヤ筒パネルに入れる透明液体シリコンと弱放射線を混合させた透明な液体を(60)の人口ダイヤ筒パネルの中に入れて蓋をした後(61)のアルミニウム枠などで、ボルト止めする構造で有る。

此のほか、(60)の人口ダイヤ筒パネルに透明液体シリコンと原子力廃棄物の放射線とを混合させた液体シリコン混合放射線を(60)の人口ダイヤ筒パネルに入れ蓋をした後プラスチック縁溶着を行う手段が考えられる図8の(60)の人口ダイヤ筒パネル液体シリコン微量放射線パネル構造説明で有る。

コメント

10

20

30

40

50

2008年6月22日PM20時16分20秒図10と図11と図12の説明を残すばかり、夕食を軽く食べて今日中に終わらせる新しい原子力発電方法の説明と原子力廃棄物処理貯蔵と再利用方法を本日中に美馬牛カンキチが書き終わらせる頑張るべし。美馬牛増野
コメント

2008年6月22日PM21時15分51秒最後の図面補修補正番号入れ何とか後2時間30分で終わらせる美馬牛カンキチ増野。

【 0 0 5 8 】

図10の説明を始める。

図10は、新しい原子力電子熱酸素加圧蒸気タービンの圧電素子内蔵ダイナモ発電の番号による説明を始める。

図10の(2)核燃料または核燃料原石ウランを直接ゆっくりと(1)電子発生放射機装置で、(2)

核燃料ウランを核融合臨海温度まで、電子熱を与え続けて(2)核燃料ウランコロナ状態にするため、(2)核燃料ウランの受け皿は、厚手の陶器箱に入れて(1)の電子発生放射機装置によって、ゆっくり暖め続けられて臨海温度まで、もって行く、此の場合(1)の原子炉は、二重及び三重構造になり、厚手の陶器箱の下は石炭灰などの一度燃えた灰などが、耐熱とし

て入れられている。

更に、(3)の原子炉の熱を使用する為に(3)鋼鉄の箱型原子炉は、高熱圧縮酸素を作るために

(3)の鋼鉄原子炉は、高温圧縮酸素が、循環出来る(3)原子炉構造で有りもう一つの構造つまり三重目になる空間は、石炭灰などが、ぎっしり詰まってる構造になっている。

更に、緊急的に(3)の原子炉を冷やす場合は、(3)の原子炉の回りをコンクリートなどの水を入れる事の出来る水槽型にしてある構造で有る。

おそらく、水を入れて冷やす事は、最後までないと考える。

更に、(3)の原子炉の中の放射能は、水を入れて別タンクで処理する方法と、真空にして

中の空気放射線を抜き取り、原子力灰をバキューム回収する技術で有る。

この場合、再び(1)原子炉装置は、再び使用出来て、地震などでも、放射能漏れが過去の原子力より安全なのは明白で有る。

次に、(85)の加圧器の説明に入る。

今までの加圧器は、水蒸気スプリング加圧器で有る。

そのため、臨海温度まで、水蒸気を熱すると水素のプルトニウムも、実際上臨海温度に達するため、微量の放射能が出る。

そのため、水蒸気加圧は、臨海温度まで行かない温度設定で有る。

そして、発行所実教出版株式会社 図説電気・電子用語事典の図解では、図1と図2に有るように(97)の冷却材ポンプと書かれているため、(96)の蒸気発生器つまり、(85)の加圧器は、

別名名前をつけるとすれば、高温スプリング加圧機になるため、(96)の冷えた水に(85)の超高温の圧縮蒸気を水に入れる時莫大な蒸気風が発生する。

つまりこの時、(85)の超高温の蒸気は、冷えた水とぶつかり合う事で、蒸気風エネルギーが発生する。

しからば、(85)の高温酸素スプリング圧縮によって加圧された高温酸素は、スプリングスイッチによって、(86)の電動仕切り弁Aを開き(96)の蒸気発生器の水と(85)の超高温圧縮酸素とぶつかり合って、水蒸気風を起こして(87)電動仕切り弁を開き(88)スクリー官装置Aつまり、今まで以上の原子力発電の電気発電量を上げる第一工夫は、スクリー官で有る。

(89)の蒸気風に更にスピードを付ける為に、蒸気に回転エネルギーを与える為に、(88)蒸気

スクリー官Aそして、(90)スクリー官装置Bなどを(89)の蒸気を通す事で、蒸気は、更

10

20

30

40

50

にスピードを増して(93)のタービンを回して(94)のタービン軸によって第二の発電量アップ技術の圧電素子内蔵ダイナモを高速回転させて発電する方法で有る。

更に、復水器を使用しないで、(91,92,95,)の電動仕切り弁C,D,E,を使用して再び(96)の蒸気発生器に持って行くまでは、超小型官内蔵羽回転ダイナモ発電を行ってから(96)の蒸気発生装置に(89)の蒸気を持って行く構造説明だが、蒸気発生しずらいと言うならば復水器を使用した発電方法に変える事も可能である。

コメント

2008年6月22日(日)PM22時44分49秒正直言って原子力発電だけは、絶対に書きたくなかったのが心情なのです。正直言ってだいい嫌いなのです。所が、その原子力発電で、この先子

供達の国政生活権と都道府県市町村生活権が、お金と言う生活の財源から脅かされる事態だから、子供達に水発電機などの無害無給油連続作動発電機と一緒に理解していただきたく新しく今まで以上の発電力アップの原子力と原子力廃棄物の少なくコストが安く済む原子力を書いて見ました参考に一度読んで未来を考えて見て下さい。

【0059】

図10に於いての説明を続ける。

図10の原子力発電機の一つ目の改善策の特徴は圧縮高温酸素を使用している事。

次に、二つ目の改善策は今まで以上の(89)の蒸気スピードを上げるために(88,90,)のスクリュウ官使用で有り短い距離で、蒸気スピードを上げる方法がこのスクリュウ蒸気回転方法で有る。

三つ目の改善策は、ダイナモ構造で有り、軽水素内蔵圧電素子磁石をダイナモの中心部に内蔵してボルトナット止めした軽水素内蔵圧電素子内蔵のダイナモ装置で有る。

【0060】

図11に於いての説明を始める。

図11は、今回原子力発電の新しいタイプの原子力発電方法を書くにあたって、基本となる資料が必要になり、図説・電気・電子用語事典・発行所実教出版株式会社1999年12月20日第1

8刷発行の140ページの軽水形原子力発電の図説を見て、新しい技術の入れる場所を考慮して新しい原子力発電方法を書く為に参考にした図11の図説で有る。

【0061】

図12に於いての説明を始める。

図12は、図4と図5の原子力廃棄物又は原子力廃棄物放射能線の回収と放射能線の別回収方法と水と放射能線を分ける技術説明で有り、図4と図5で、説明した通りで有る。

従って以上図1~図12で説明した新しい原子力発電方法では、原子力廃棄物の削減と今まで以上の発電量アップと原子力核燃料の廃棄物の微量放射能線パネルの安全な使用方法の説明を行う事で、借金で苦しむ国政と都道府県市町村の財政に対して、絶対に飛散しない微量放射能パネルの有効な活用と新しい絶対に飛散しない微量放射線パネルの活用によって、金ばかり掛かる原子力財政にメスを入れて国民一人一人にすべて解る原子力資産財政の時代作りの為の第一歩を理解していただきたい。

【0062】

図13の、説明を始める。

図13は、北海道庁広報広聴第3-37号の2001年5月2日~5月7日までの先発明考案の先知的所有財産の原本郵便物北海道庁受理書。

【0063】

図14の、説明を始める。

図14は、2001年5月2日美馬牛市街地自宅で増野和夫が書いてあった北海道民財産の当初、永久発電機の固形水素及び液体マグネシウムの水の電熱線気化によって、発電する構造を書いて有った説明図原本の写し図で有る。

【0064】

図15の、説明を始める。

10

20

30

40

50

図15は、2001年5月2日美馬牛市街地自宅で、増野和夫が既に、現在の水発電機の永久発電機は、既に考案して有り真空装置と電熱線で水を気化酸素と気化水素に瞬間に変えてコンプレッサーの反対ファンの強制エア吸入装置と固形水素にわずかな透き間を作って、水素と酸素に瞬間的に酸素を取り出せると考えて書いた図で有るが、何処まで書いても、燃料電池発電の意味にしかないばかりか、水の瞬間気化に対しては質量が同じため、酸素だけでも、残らず発電に終わってしまった図説で有る。

後の放射能線除去装置すなわち、放射線は、堅い物質に跳ね返り、水などには融合する特徴が有り、後の固形水素の中身が大理石又はガラスの粉などにしなければ、すべて再び発電してしまい水になると言う結果しか生まない事実を変える為の水の瞬間気化装置の説明図原本の写し図で有る。

10

【0065】

図16の、説明を始める。

図16は、2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、当初マスコミで、原子力廃棄物処理問題に対して騒いでいた頃で、有り国の全額借金及び都道府県市町村の全額借金を子供達または、これから生まれてくる子供達に借金全額を払わす事を、国会議員が、テレビ画面上で発言したため、放射能貯蓄そして、保存そして、再利用の決まって無い頃、原子力廃棄物の処理貯蓄に対して説明文書図の北海道庁保管の先発明先考案の先知的所有財産の原子力廃棄物処理保管技術を説明した文章図写し図で有る。

20

【0066】

図17の、説明を始める。

図17の、2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、原子力廃棄物缶に対して錆びない構造のアルミニウム合金製の説明で有り、地震による原子力廃棄物缶の対策として、アルミニウム布で巻いたりして、クッションの役目など、ロボット機械既に全自動ロボットを導入予定で有った事の説明文章図の写し図で有る。

【0067】

図18の、説明を始める。

図18の、2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、原子力廃棄物缶の取り扱い処理説明に対してカニ型ロボット機械などロボット機械を修理するロボットシステムなどの先考案設定して有り、強制放射能洗浄装置、水で洗い流して別の地下などの放射能線水の仮の貯蓄水槽に溜めて処理する予定の放射能線強制洗浄6段階装置などの使用予定を書いた文章図で有り、24時間モニター監視システム故障に対応する部品交換全自動ロボットリモコンロボットなどの予定して有った先考案説明文書図で有る。

30

【0068】

図19の、説明を始める。

図19の、2001年5月7日美馬牛市街地自宅で増野和夫が、原子力廃棄物缶を貯蔵再利用するため保管する地下の地層地盤説明、税金説明、テロロボット機械侵入防止対策のトンネル構造と金属は、鋼鉄使用で行う事などの地下原子力廃棄物の貯蔵管理説明の文章図の写し図で有る。

40

【0069】

図20の、説明を始める。

図20の、2002年9月26日北海道庁広報広聴第3-183号で有り2002年9月24日などの圧電素子4電子磁気分割電気を使用した核燃料ウラン電子熱臨界温度発電方法などの先発明先考案及び先知的所有財産の郵便物受理書。

【0070】

図21の、説明を始める。

図21の、2002年9月24日栃木県真岡市下高間木でウラン鉱石から電子熱臨界温度電子熱調整技術を使用して発電する方法の説明文章図で有る。

【0071】

50

図22の、説明を始める。

図22の、2002年9月24日栃木県真岡市下高間木で、放射能水を、水と放射線に分ける技術を説明した文章説明図で有る。

コメント

2011年4月5日pm21時48分睡眠の時間の為、ここでペンを置く千葉県の上野和夫で有る。

コメント

2011年4月6日am5時54分一時間程書く事にする千葉県の上野和夫で有る。

【 0 0 7 2 】

図23の、説明を始める。

図23の、平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から上野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都日本消費者連合会へ送ったゆうパック領収書。

10

【 0 0 7 3 】

図24の、説明を始める。

図24の、平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から上野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都NHKふれあいセンター会へ送ったゆうパック領収書。

【 0 0 7 4 】

図25の、説明を始める。

図25の、平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から上野和夫の先知的所有財産の確認の為にアムネスティインターナショナル支部会へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書。

20

【 0 0 7 5 】

図26の、説明を始める。

図26の、平成15年1月6日岩手県胡四王簡易郵便局から上野和夫の先知的所有財産の確認の為に、東京都日本共産党委員会志位和夫会へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書。

【 0 0 7 6 】

図27の、説明を始める。

図27の、平成15年3月末日岩手県胡四王簡易郵便局から上野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都社民党本部土井高子会へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書。

【 0 0 7 7 】

図28の、説明を始める。

30

図28の、平成16年1月4日旭川市中央郵便局から上野和夫の先知的所有財産の確認の為に東京都民主党本部民主党党首会へ先知的所有財産を送ったゆうパック領収書。

コメント

2011年4月6日am6時47分仕事の時間なので、ここまでとする千葉県の上野和夫。

2011年4月6日am6時26分仕事が終わって睡眠時間まで少し書き始める事にする千葉県の上野和夫。

【 0 0 7 8 】

図29の、説明を始める。

ここからは、2011年3月上旬の東北太平洋側のマグニチュード9の地震津波災害を、受けて書く事にした原子力事故を、少なくしたり、原子力廃棄物を、少なくする技術を、図面の符号説明によって紹介する。

40

従って、図29は、放射線水の、放射線と水に分ける装置は、127の無害無給油の連続作動の半永久発電機の高出力水発電機の電気を使って、パキウムカーを、リモコンタイプにした128の、前後左右ライトカメラと133の、前後上下左右作動確認ライトカメラによって、リモコン操作可能に成る。

更に、パキウムリモコンホースに使用積載する高出力モーターは、複数の軽水素トリチウム電子入りの圧電素子磁石体シートパネルと軽水素トリチウム電子入りチタン酸バリウムシートを、交互に貼り合わせた高出力圧電素子の軽水素トリチウム電子が、圧電素子磁石体の中に大量に入れた圧電素子磁石体構造に高出力圧電素子磁石体のモーター回転による圧電素子磁石体の滑落防止の複数穴空きの超薄ステンレス板によって、高出力圧

50

電素子磁石体全体を、包む用に囲む事でモーターコイルの総重量を、軽くする事
と、モーターコイル磁気力を、上げる為に、モーター内コイル内の圧電素子磁石体に軽水
素トリチウム電子を、大量に入れる事の出来るモーター内コイル板の構造に成る。
更に、通常の銅コイル配線より、軽量にする事と通常の銅コイル配線より、電気の流れを
早く出来るコイル配線の新技术として、銅コイル配線を、コイル筒官形状にする事と
銅コイル筒官形状の中に電気の通り易い物質の軽水素トリチウム電子と圧電素子磁石体粒
子を、混合合成した軽水素トリチウム電子入りの圧電素子磁石体粒子を、銅筒官コイル形
状の中に内蔵する事で、電気の通り易い超軽量の銅筒官コイル配線が出来上がり、高出力
圧電素子磁石体の超薄の複数針穴構造のステンレス磁石板で、包んだ高出力圧電素子磁石
体に超軽量の銅筒官コイルを巻いたモーター内コイルは、超軽量で、モーター内コイルに
流れる電気スピードは、電子スピードに成る為、モーターの電気消費は、世界最小に成る
。

10

バキューム吸引力の世界最速吸引説明。

上記に、説明した用に、高出力モーターは、電気消費の世界で一番少ない電気消費と世界
で一番高速回転が可能に成るモーターの内コイルを、複数連結させたモーターが、高出力
2連結以上モーターに成り、本発明の124のパキューム装置は、放射線の吸引力が、世界最
速に成る。

高出力遠心分離機の説明。

本発明の、124のパキューム装置は、放射線水を、一度129の、仮貯蔵タンクに放射線水を
、貯蔵して、131の高出力遠心分離機は、複数針穴の鋼鉄板と高出力電動モーター仕切り
弁を、内蔵した構造と、遠心分離機内には、数個の放射線返しの金属突起小板の遠心分離
機によって、放射線を、小さな複数の針穴から、放射線を放出させる装置が、最終的に追
加の遠心分離機としての最新技術の説明に成り、134の水と高濃度放射線水を高濃度放射
線物質貯蔵タンクに高濃度放射能を貯蔵して、タンク備え付けの高出力電動モーター仕切
り弁によって、高濃度放射線水を、貯蔵したタンクは、取り外しても、アダプタタンクの
為、放射線の出入り口の、高出力電動モーター仕切り弁口からは、高出力電動モーター仕
切り弁口構造の為、放射線が、外に出無い構造に成る。

20

従って、放射線水処理の為には、満水に成ったタンクアダプタ毎を、取り換える構造に成
る。

更に、132のスクリー無線波リモコン装置によって、高速リモコン操作によって遠隔ラ
イトカメラによって操作可能な放射線水の真水と高濃度放射線水に分離出来て、専用の
の134の、濃厚度放射線水貯蔵タンクに、濃厚度放射線を、貯蔵処理出来る装置に成り、1
34の濃厚度放射線物質貯蔵タンクは、ヘリウム室素石灰物質のパネルを、内蔵した
134の、二重構造の高濃度放射線物質貯蔵タンクに成る。

30

【 0 0 7 9 】

図30の、説明を始める。

ここに、書かれている装置は、テレビマスコミ報道の放射線防止シートと異なる台風の風
被害の為、台風被害の無い放射線遮断パネルの説明を始める。

従って、136の、福島原子力発電所全体を、囲う為の、138の仮設防護グラスファイバー組
立て枠は、超薄ステンレスパネル内蔵のグラスファイバー組立パネルは、床部分は床のロ
ックボルト固定と接着の為の、137の酸化鉄プラスチック入り溶液によって、床の隙間部
分を、塞ぐ技術に成って入る。

40

その為、135の仮設枠止めボルト穴は、138の仮設防護グラスファイバー組立枠を、固定す
る為の、135のボルト穴に成り、138の仮設防護グラスファイバー枠と枠は、差し込み構造
に対して、金板とボルトとナットで、止める構造になり、一回り大きい屋根パネルを、被
せて金板とボルトナット止めによって、136の福島原子力発電所の放射線防止パネルは、
クレーンと高所作業車に全自動ロボットもしくは、リモコンロボットなどで、ボルトとナ
ットの取り付けと138の仮設防護グラスファイバー枠を、組み立てる事が出来る
構造に成る。

コメント

50

2011年4月6日pm22時7分ペンを置く千葉県の増野和夫で有る。

コメント

2011年4月7日am6時8分仕事の時間まで、少し書く事にする千葉県を増野和夫で有る。

コメント

2011年4月7日am6時48分仕事の為、ペンを置く千葉県を増野和夫で有る。

コメント

2011年4月7日pm18時55分寝る時間まで、少し書き始める千葉県を増野和夫で有る。

【 0 0 8 0 】

図31の、説明を始める。

ここでは、136の福島県原子力発電所の、地震事故を、未然に防ぐ為の101のコロ電磁石反発免振装置は、136の福島県原子力発電所の一つの原子炉建屋そっくりを、101のコロ電磁石反発免振装置の高出力電磁石板の新技术の銅筒官コイルの軽水素トリチウム電子入り圧電素子磁石体粒子を、銅コイル官の筒状形状コイル電気線の中に内蔵した電気の通り易い物質の電子の流れるスピードと同じスピードで、電気が、銅筒官コイル官の電線の中の電子物質の軽水素トリチウム電子を、伝わって電気が流れるコイル配線と鋼鉄板と鋼鉄板の間に、高出力圧電素子磁石体の、構造の、軽水素トリチウム電子入り圧電素子磁石体パネルと軽水素トリチウム電子入りチタン酸バリウムシートパネルを、交互に貼り合わせた軽水素トリチウム電子の大量に入った圧電素子磁石体合成の複数重ねの圧電素子磁石に複数針穴形状の超薄ステンレス永久磁石体を、被せた高出力永久磁石体に新技术の銅筒官コイルを被せて、高出力電磁石部分が、潰れ無い用に、鋼鉄永久磁石で挟む用に高出力電磁石を、被せる事で、電気消費を、少なくさせた電磁石反発の力で

136の原子力建屋全体を、持ち上げて浮かせて振動を減らす装置で有る。

従って、免振装置自体が、左右に振れた場合、コロ免振装置のコロ部分の上下の鋼鉄電磁石板が、左右のストッパ金具合計で、8箇所以上の上下の電磁石を、鋼鉄厚板に止め太ボルトが、2ヶ所取り付け付いた装置が、8個以上から16個以上取り付けする事で、コロ電磁石反発免振装置の左右の振れから発生するコロ電磁石反発免振の免振支え軸の破損を避け強度を、高めた構造に成り、コロ電磁石反発免振装置の左右の揺れの吸収の為の102の免振横揺れ吸収の複数金属スプリング装置と、103の免振支えコンクリートによって、完全に原子炉と原子炉建屋全体の、地震の振動を、コロ電磁石反発免振の横揺れを、吸収する装置で有り、縦揺れは、104の免振杭とコロ電磁石反発免振装置の電磁石反発装置によって、振動を吸収する事によって、100の原子力建物と99の原子力発電装置に成る。

【 0 0 8 1 】

図32の、説明を始める。

ここで、福島県原子力発電所が、次にもう一度原子力発電所を、作った場合の説明を始める。

従って、99の原子力発電装置及び原子炉は、104の免振杭装置と、101のコロ電磁石反発免振装置付きに成り、100の原子炉建物のコンクリートには、鋼鉄鉄筋が、使用内蔵されコンクリートの劣化防止の固形窒素内蔵パネル構造に成り、緊急冷却の為の、冷却窒素ガスコンプレッサーの窒素ガスタンクとコンプレッサーを併用した装置によって、緊急冷却出来る冷却ガス噴射装置を備えた放射線水を増やさない装置に成る。

更に、地盤は、地下水に、放射線水が、しない用に、113の地盤改良材として、地盤凝固剤によって、放射線水を、地下水に入れない基礎地盤構造に成り、114の金網ブロック入りコンクリートは、通常金網より、コンクリート亀裂を、防護する為の立体ブロック鉄筋装置に成る。

この他、万が一放射線水が、漏れた場合、112の放射線回収官は、プラスチック突起官の裏表を、固形窒素及びガラス粒子内蔵セメントによって、プラスチック官の表裏を、セメント官でも、水漏れしないで、火災対応した放射線専用の回収官に成り、111の、放射線水濾過装置付きの99の原子力装置に成る。

この他、99の、原子力発電所内を、全自動撮影出来る110の緊急監視用ライトカメラは、高出力自動電池の半永久連続発電作動出来る充電電池とライトは、軽水素トリチウム電子

10

20

30

40

50

入り高出力ダイオード発光ライトを使用し、カメラは、魚眼レンズを使用する事で、一つのカメラで、原子炉内を、監視出来るカメラに成り、全自動魚眼レンズ修正装置によって、99の原子力発電装置室内を、監視出来る装置に成る。

その他、109の緊急冷却用ビニールプラスチック排水官は、固形窒素とケイ素ヨウ素とガラス粒子と木材灰とセメントを、混合合成した物質を、ビニールプラスチック官の裏表に貼り付けた109の緊急冷却用ビニールプラスチック排水官に成り、106の高出力モーターの手動W電動仕切り弁によって、109の緊急冷却用水を、制御する事が出来る。

コメント

2011年4月7日pm21時29分寝る時間なのでペンを置く事にする。

コメント

2011年4月8日am6時1分仕事の時間まで、少し書く事にする千葉県の上野和夫で有る。

そして、105の雨水排水槽の砂利層の下には、116のコンクリート割れ防止ゴムパネルシートが、敷かれている構造に成る。

【0082】

図33の、説明を始める。

ここで、福島県原子力発電所が、次にもう一度原子力発電所を、作った場合の説明を始める。

従って、121の排水官は、原子力発電所内に、緊急補助発電装置の軽油発電機と大量の貯蓄軽油を、保管した場合を、含めての対策として、火災事故と地震振動破壊事故の二つの対策を、可能にした121の、排水官の構造は、グラスファイバー官の表裏に突起面を作って、固形窒素と石英粒子とセラミック粒子とセメントを混合合成させたセメント官を、グラスファイバー官の表裏両面に、取り付けた官構造を、取り付ける事に成り、管台は、120の強化ゴム管台を使用して、官止めに、119のグラスファイバーキャンバーが、使用されている構造に成り、118のコンクリート層のしたには、116の、コンクリート割れ防止ゴムと104の地震の地割れ防止装置として、104の免振杭が、地震の揺れを、弱冠吸収して、118のコンクリート層には、122の固形窒素木材灰入り防水シートなどによって、放射線を、地下水に入れない構造に成って入る。

コメント

2011年4月6日am6時41分仕事の為、ここでペンを置く千葉県の上野和夫で有る。

コメント

2011年4月9日am6時33分仕事が休みの為、朝から書き始める千葉県の上野和夫で有る。

【0083】

図34の、説明を始める。

北海道知事に福島原子力発電所の今後の、再生原子力の構造説明図によって、国と、都道府県市町村区的全額借金返済の為の、著作権技術説明図を封書で送った時の証拠図。

【0084】

図35の、説明を始める。

従って、図35では、136の、福島県原子力発電所建物は、140の、固形窒素入り酸化鉄プラスチック溶液枠または、超薄ステンレス板内蔵グラスファイバー枠によって、2011年3月の原子力事故の対策として、放射性蒸気の大気中放出を、避ける為に、超薄板のステンレス板内蔵の、140の固形窒素入り酸化鉄プラスチック溶液枠を、金属板とボルトナットで、136の、福島県原子力発電所建物の、天井と周囲を、囲む事で、放射線蒸気を、空気中に放出しない事により、136の、福島県原子力発電所建物内の、放射線度が、上がりっぱなしに成る為、141の放射線蒸気ダクト官と142の、放射線蒸気回収の為の水を溜める為の143の、金属枠プールが、必要に成り、設置した図設に成り、144の放射線水回収弁が、143の、金属枠プールが、必要に成り、144の、放射線水回収弁は、放射線水の濾過装置によって、水と濃度放射線水に分ける装置に繋げる事に成り、この時点では

136の、福島県原子力発電所内に、入れる放射線防護服は、実在して無い事に成り、リモコン人型ロボットと全自動インプット人型ロボットしか136の、福島県原子力発電所建物内では、作業出来ない事に成り、136の、福島県原子力発電所建物内の、放射線を、空気

10

20

30

40

50

中に放出を、止めた場合、次の課題説明とは、濃厚度の放射線処理を、行いながら、固形窒素水などの、冷却水で、わずかに下がっても、熱吸収をすると、放射線水の温度が、下がらなく成る為、超大型の冷却冷風を、放射線水に入れて、水蒸気の量を、削減しながら、136の、福島県原子力発電所建物内の、発生の弱まった放射線空気を、別に強制吸引して、143の、金属枠プールに、濃厚度放射線を一時貯めるのだが、現在、原子炉の治まって無い原子炉の原子力臨界温度を達した放射線原子の処理を、再び、作動させて、原子力物質の熱放出活動を止める場合、小さく小分けにした原子力物質を、固形ヘリウムを、使用した超マイナス窒素ガス冷蔵庫に保管しなければ、原子力物質の熱放出と放射線放出は、止める事が、出来ない原子力発電所の利点で有り、欠点に成るのが、現在の知り得ている知識に成り、原子力物質を、超高速遠心分離する技術によって、鉛液で、固めるまでの技術しか無いと一度原子力事故を、起こした結末で、有り、必然的に、放射線物質が、多く成り、果たして、熱放出が、止まる物質まで、遠心分離出来るかが知識不足に成るが、処理の道は、ここにしか無いのも、事実の様で有るが、処理方法としては、136の、福島県原子力発電所無いの、原子核物質を、他の原子力発電所で、原子核物質を、もう一度作動させて、低レベル原子核物質にする方法が、一番放射線物質を、減らすメドの立つ処理方法に成るが、最終的に、136の、福島県原子力発電所内に、臨時の、原子力免振装置付きの発電所を、ロボットなどで作るか、構造を、丸っきり変えた組立型の仮設原子力発電所を、作って低レベル原子核物質にする手段を、取らない限り、長引く136の、福島県原子力発電所建物の放射線の発生物質処理をどのようにするかが、国の判断は、どの様にするのが、今後の注目する技術公開に成り、全国の原子力関係の大学技術公開は、急がれる日本の緊急課題で有り、話し合って頑張るしか無い。

10

20

【 0 0 8 5 】

図36の、説明を始める。

従って、図36の、放射線事故後の147の作業員放射線水防護仮設足場超薄ステンレス板内蔵アルミニウム足場は、緊急時使用する放射線防護服を、来て作業する足元の放射線量を、少なくする為の装置で有り、150の地盤調整ゴムと148の足場繋ぎボルト穴に成り、149の、放射線水水中ポンプ繋ぎ官は、アダプタ式の構造に成り、この装置の場合は放射線濃度が、低い場合にしか効果が無い放射線足場防護装置に成る。

【 0 0 8 6 】

図37の、説明を始める。

従って、放射線濃度が、極端に高濃度で無い場合、156の放射線防護靴は、152の、超薄アルミニウム板と151の、綿入りゴムとビニールゴムに成り、154の、胴長性の放射線防護靴は、155のアンテナライトカメラは、高出力自動充電電池付きの軽量を、重視した放射線防護靴の構造に成り、緊急時使用の為の156の、放射線防護靴に成る。

30

【 0 0 8 7 】

図38の、説明を始める。

従って、緊急時の、放射線濃度を、浴びない為の装置は、159の、浮遊用発砲ウレタンパネルに158の、超薄アルミニウムステンレス板を貼り付けた構造に成り、157の放射線防護板固定ヒモに成り、ワンタッチアダプタ式のも有り、放射線量を、少なくする為の装置に成り、緊急用の放射線の足元から来る放射線量を減らす装置に成る。

40

【 0 0 8 8 】

図39の、説明を始める。

福島県原子力発電所の事故後の、処理をする際に、放射線量を、減らす事を、説明した図を、北海道知事に封書で、送付した時の証拠図。

【 0 0 8 9 】

図40の、説明を始める。

福島県原子力発電所の、原子炉を、急速に冷やす為の、外部冷却装置案に成り、2011年4月9日現在、東京電力では、福島原子力発電所が、地震で壊れた冷却装置の、修理をしている現況で有り、再び地震が、来た場合の、冷却装置の地震によつての、二次災害に成らない冷却装置の復旧が、求められる課題に成り、循環プラス1度位の冷却循環水が、放射線

50

水を、増やさない用にしなければ成らない課題に成り、原子炉のひび割れ補修などの、放射線水の放出を、防ぐには、リモコンロボットによって、水中溶接技術などで、原子炉の放射線を、外に出さない工夫が、必要で有り、原子炉の放射線水と放射線漏れを、防いだ時点で、原子炉の放熱と放射線放出が、下がるまで、長い月日が掛る為、原子炉を、冷やす為の別の循環水冷却方法を取り入れない限り、青森県六ヶ所村の原子力廃棄物処理場が一杯に成る。

その為、循環低温度冷却水の装置を作成する事に対して、緊急の対策が必要に成る。

【 0 0 9 0 】

図41の、説明を始める。

福島県原子力発電所の、火災事故の対処の為の、特中の電気配線の構造を、説明した図を、北海道知事に葉書で、送付した時の証拠図に成り、熱溜まりによる電気配線の漏電防止事故を、防ぐ為の固形窒素入りのグラスファイバーセラミック官の半割官を、バンドナットで、止める構造の装置に成り、緊急時は、水道アルミニウムジャバラ官を使った折りたたみ可能な官にゴムカバーを付けたプラスとマイナス配線を、別々にした官が、漏電防止官として、必要性が高く成り、通常電気配線は、破損と漏電被害に成り易いのも、現状で有るが取扱いは、手間が掛るのが、ネックな理由として、プラス配線とマイナス配線を、別々にしなければ、緊急時の効果が無い理由として、電気線切断に成った場合の、応急修理が速い配線に成り、2011年4月9日am9時25分とりあえず発明を実施する為の形態説明に成り、東京電力と国の広く国民との話し合いをする事によって、他の者の高額特許権使用料金を防ぎ、電気量高額請求の国民請求を防ぐ為の発明を実施する為の形態説明に成る。

10

20

【 0 0 9 1 】

図42の、説明を始める。

国会決議で、原子力発電所を、追加建設しない場合の世界特許の、燃料電池の液体マグネシウム発電物質を使った化石燃料と原子力発電物質を使わない発電装置は、軽水素トリチウム電子酸素水の循環水を使った水発電機の高出力水発電機に成り、160の、循環燃料電池発電機に成り、大型トレーラークラスの大きさの160の、循環燃料電池発電機を10台程使って162の、大型トレーラークラスの電気電子熱発生装置を、10台位複数使用して、軽水素トリチウム酸素水を、電子熱で熱して、沸騰させて、161の追加電気電子熱加圧機によって、水蒸気を、更に高温にして、165の、電気熱軽水素酸素水蒸気発生装置で、沸騰させた軽水素酸素水蒸気を、164の、スクリー官によって、超高速回転の軽水素酸素水蒸気に変えて、166の、スクリー水作動タービンを、連続回転作動させて、167の高出力ダイナモを、高速回転発電出来る装置に成り、ここまでは、軽水素酸素水は高温水蒸気に成り、168の、蒸気圧力温度調整の為の軽水素酸素水の高温水蒸気発電装置として、燃料電池の液体マグネシウムを使って、高出力水発電を、166のスクリー水作動タービンの水蒸気の軽水素酸素水蒸気を使って、液体マグネシウムを、使って軽水素酸素水発電を行ってから、164のスクリー官を通じて、163の、圧力調整軽水素酸素水タンクで、水蒸気スピード調整して、再び165の、電気電子熱軽水素酸素水蒸気発生装置によって、再び、164のスクリー官によって、高速スクリー軽水素酸素水蒸気によって、166の、スクリー水作動タービンを連続回転させて167の、高出力ダイナモの高速回転発電と軽水素酸素水蒸気を、使って燃料電池の液体マグネシウムを使って、燃料電池の水蒸気発電とタービン回転の167の、高出力ダイナモ発電のダブル発電を火力発電の水蒸気タービン回転作動発電機で、ダブル発電と高出力ダイナモ発電を可能にする事で、火力発電所の発電総合電気量を、上回る沸騰水タービン火力発電機を可能にした世界初の総合技術の電気電子熱火力発電所の発明の形態説明した文章に成り、火力発電所と異なり、化石燃料を、燃やさないで、電気電子熱火力発電を、可能にした装置で有り、二酸化炭素も、排出しないのが、特徴の一つに成る。

30

40

【 0 0 9 2 】

図43の、説明を始める。

福島県原子力発電所が、危機状態に成って入る以上資源が、掛らなくて火力による沸騰水

50

力を上げる事の出来る技術と通常のタービン回転ダイナモ発電より、発電量の増える高出力ダイナモ技術と、沸騰水行き良いが、弱まった気化水蒸気の燃料電池技術の液体マグネシウムを使用した水発電機の発電技術によって、通常使用している火力発電所の総合発電量より発電量を、増やした世界最新の電気電子火力発電所の説明図を、北海道庁の北海道知事に送付した時の封書年月日証拠図。

【符号の説明】

【 0 0 9 3 】

- | | | |
|--|--|----|
| 1 | 電子発生放射機装置 | |
| 2 | 核燃料原石(ウラン) | |
| 3 | 原子炉 | 10 |
| 4 | 放射能廃棄物缶滑り止めゴム | |
| 5 | 放射能廃棄物缶挟み装置 | |
| 6 | レールモーター第一ホイスト | |
| 7 | レールモーター第二ホイスト | |
| 8 | レールモーター第三ホイスト | |
| 9 | チューブ無しタイヤ | |
| 10 | 地下室内GPS送受信アンテナ | |
| 11 | ロボット機械ライト | |
| 12 | ロボット機械カメラ | |
| 13 | 緊急補助機械式発電機1 | 20 |
| 14 | 緊急補助機械式発電機2 | |
| 15 | 水発電機1 | |
| 16 | 衝撃吸収ゴム | |
| コメント | | |
| 2008年6月22日PM23時45分36秒少し残ってしまうが明日必ず4日も掛かって書き上げる知的所有財産書きになってしまいそうで有る。美馬牛カンキチ本日ここまでとする。 | | |
| コメント | | |
| 2008年6月23日AM8時54分32秒(月曜)美馬牛羊雲そして夏の晴れ間朝のインスタントラーメン現在無風どうやら日中温度が上がる用で有る。 | | |
| 2008年6月23日AM9時31分25秒朝食終え洗い物済ませ米炊飯大雪山麓白い雲ならにわか雨無い今は羊雲も消え日差しは強まる本格的夏を待つ美馬牛カンキチ。 | | |
| 17 | 後方確認カメラ装置 (テレポーションカメラ、焦点距離認識確認ダイオード色確認認識カメラ、弱電波カメラ焦点カラー色金属センサー物体距離確認認識カメラ) | 30 |
| 18 | 補助バッテリー | |
| 19 | 地下天上GPS地図 (移動作業全工程地図移動記憶装置内蔵) | |
| 20 | 強制エアー吸収装置 | |
| 21 | 放射能線噴水連続空気洗い流し機 | |
| 22 | 放射能線気化水吸引モーター1 | |
| 23 | 穴空き固形水素合成液体マグネシウム | |
| 24 | 真空装置1 | 40 |
| 25 | 電動仕切り弁1 | |
| 26 | 地下室内GPSアンテナ | |
| 27 | 電動仕切り弁2 | |
| 28 | 水発電機2 | |
| 29 | 地下室内GPSアンテナ | |
| 30 | レールモーター第4ホイスト | |
| 31 | 水中ポンプ1 | |
| 32 | 第一放射能水処理タンク | |
| 33 | 第三放射能水処理タンク | |
| 34 | 6段階放射能エアー | 50 |

35	電動仕切り弁6	
36	複水放水放射能エアー洗浄噴水装置	
37	放射能エアー吸収モーター1	
38	電動仕切り弁4	
39	電動指揮利便5	
40	エアー放水官1	
41	エアー放水官2	
42	給水ポンプ1	
43	給水貯蓄水タンク	
44	水発電機3	10
45	電動仕切り弁モーター1	
46	電動仕切り弁カバー	
47	電動仕切り弁	
48	放射能廃棄物ナット式官厚型蓋装置	
49	原子力廃棄物ドラム官	
50	ロボット機械吊り金具装置	
51	アルミニウム補強クッション用粘着テープ	
52	原子力廃棄物官最終姿	
53	人口ダイヤ	
54	プラス電気	20
55	マイナス電気	
56	穴空き固形液体マグネシウム水素冷却ガス官パネル	
57	冷却装置	
58	3段階水位センサー	
59	衝撃吸収ゴム蓋	
60	人口ダイヤ筒パネル	
61	人口ダイヤ筒パネルアルミニウム枠	
62	放射能線水吸収モーター	
63	第二放射能線水処理タンク	
64	電動仕切り弁3	30
65	真空装置2	
66	穴空き固形水素固形液体マグネシウム	
67	第四放射能水処理タンク	
68	放射能センサー1	
69	放射能センサー2	
70	金属センサー	
71	放射能水配管	
72	モーター支え金具装置	
73	穴空き固形水素冷却ガス官パネル	
74	レールモーター	40
75	穴空き固形水素冷却ガス官パネル止め金装置	
76	穴空き放射能線取り除き放射能線跳ね返し装置	
77	気化酸素水素取り入れ口	
78	放射能線バキューム装置 (ウオーター洗浄バキューム装置)	
79	水位センサー	
80	カラー色ライトライン装置	
81	電波センサー装置	
82	カラー色ライトライン装置	
83	電波センサー受信装置	
84	天上固定GPSライトカメラ装置	50

85	加圧器	
86	電動仕切り弁A	
87	電動仕切り弁B	
88	スクリー官装置A	
89	蒸気	
90	スクリー官装置B	
91	電動仕切り弁C	
92	電動仕切り弁D	
93	タービン	
94	発電機	10
95	電動仕切り弁E	
96	蒸気発生器	
97	冷却材ポンプ	
98	給水ポンプ	2011年3月25日pm19時56分から、符号の説明99から書き始める千葉県の 増野和夫で有る。
99	原子力発電装置	
100	原子力発電所建物	
101	コロ電磁石反発免振装置	
102	免振横揺れ吸収金属スプリング装置	
103	免振支えコンクリート	20
104	免振杭	
105	雨水排水層	
106	高出力モーター手動ダブル電動仕切り弁	
107	緊急時鉛板(ロボットクレーン用)	
108	地面	
109	緊急冷却用ビニールプラスチック給水管(複数金属繋ぎ官にビニールプラスチックを 、被せることで、若干曲がる金属防護官で有る)	
110	緊急監視用ライトカメラ	
111	放射線濾過装置	
112	放射線回収官	30
113	地盤改良材水漏れ防止液	
114	金網ブロック入りコンクリート	
115	土砂層	
116	コンクリート割れ防止ゴム	
117	採石層	
118	コンクリート層	
119	グラスファイバーキャンパー	
120	強化ゴム管台	
121	排水管	
122	固形窒素木材灰入り防水シート	40
123	高出力2連結以上モーター吸引用	
124	バキューム口	
125	支え軸	
126	高出力モーター	
127	高出力水発電機	
128	前後左右作動用ライトカメラ	
129	仮貯蔵タンク	
130	走行用高出力モーター	
131	高出力遠心分離機	
132	リモコン作動用アンテナ	50

133	前後上下左右作動確認ライトカメラ	
134	高濃度放射線物質貯蔵タンク	
135	仮設枠止めボルト穴	
136	福島原子力発電所	
137	酸化鉄入りプラスチック溶液	
138	仮設防護ガラスファイバー組立枠	
139	枠防護引っ張り金具室素	
140	固形室素入り酸化鉄プラスチック溶液枠(または、超薄ステンレス板内蔵ガラスファイバー枠)	
141	放射性蒸気回収用ダクト官枠	10
142	放射性蒸気回収の為の水	
143	放射線防護金属枠プール	
144	放射性水回収弁	
145	吊金具取り付け場所	
146	強制冷却用クーラー室素ガス浮遊	
147	作業員放射線水防護仮設足場超薄ステンレス板内蔵アルミ足場	
148	足場繋ぎボルト穴	
149	放射線水水中ポンプ繋ぎ官	
150	地盤調整ゴム	
151	綿入りゴム	20
152	超薄アルミニウム板	
153	ビニールゴム	
154	胴長製の放射線防護靴も他に有る。	
155	アンテナライトカメラ充電池	
156	放射線防護靴	
157	放射線防護板固定ヒモ	
158	超薄アルミニウムステンレス板	
159	浮遊用発砲ウレタンパネル	
	コメント	
	2011年4月9日am10時58分産業上の利用可能性図の符号を書く事にする千葉県 の 埴野和夫で有る。	30
160	循環燃料電池(別名高出力水発電機)	
161	追加電気電子熱加圧機→(あくまでも、燃料電池循環式発電機の別名の高出力水発電機の電子発生装置を使用した装置)	
162	電気電子熱発生装置(電子レンジの電子発生装置に高出力電磁石と高出力圧電素子マグネトロン装置と高出力銅筒官電気配線を積載内蔵した電子レンジ改良型装置)	
163	圧力調整軽水素酸素水タンク	
164	スクリー官(軽水素酸素水スピード加速官)	
165	電気電子熱軽水素酸素蒸気発生装置	
166	スクリー水作動タービン(スクリー蒸気打撃タービン回転装置)	40
167	高出力ダイナモ(軽水素トリチウム電子入り圧電素磁石体を、通常ダイナモの中間に内蔵したダイナモを、高出力ダイナモと言う)	
168	蒸気圧力温度調整軽水素酸素発電温度調整装置	
	【産業上の利用可能性】	
	【0094】	
	図の3と、図の4と、図の5は、天井室内GPS全自動作動ロボット技術は、全自動人型ロボット及び全自動作動建設機械及び全自動作動と自動車及び全自動作動緊急車両及び全自動作動列車及び全自動作動飛行機及び全自動作動船及び全自動作動作業ロボット及び全自動作動宇宙ロボット機械及び全自動作動水中ロボット及び全自動作動空中ロボット及び全自動作動農業機械及び全自動作動林業ロボット及び全自動ロボット及び全自動水産業ロボ	50

ット等の全自動作動装置に全て応用出来る技術に成り、GPSも、トリプルGPS位置確認装置とライトカメラカラーライン接点位置のカメラ焦点距離の全自動測定技術とサーモカメラの放射線内蔵パネル技術によって、人の形状と物体の形状を、全自動区別して、データインプット技術とデータ取得全自動再処理装置など、データ記録多層層カード及び高出力モーターと無給油全自動連続作動発電機の高出力水発電機などの使用によって、全自動を可能にしている。

【0095】

図42の、電気電子熱火力発電機は、超小型発電機にする事と新2連振子型機械式発電機の組合せで、高出力ダイナモ発電効果によって、かなりの総合発電量が期待出来て、高速自動車の発電機など、船の発電機など、建設機械の発電機など、あらゆる分野の電気製品に使用出来る。

10

【0096】

図42の、循環燃料電池発電機は、超小型の電熱線の軽水素酸素水の循環発電機に成り、携帯電話の電源など、あらゆる分野の超小型電気製品の無給油の連続発電機として、使用する事が出来て、全世界の自動充電電池の次の発電機として、活躍可能に成り、国の全額借金返済と都道府県市町村区的全額借金返済も、夢で無く、実現出来る事に成る。

コメント

2011年4月9日pm20時50分疲れたのでペンを置く千葉県の上野和夫で有る。

コメント

2011年4月10日昼pm12時40分日曜日漸く書く事にする千葉県の上野和夫で有る。

20

【0097】

図29の、放射能水の放射能除去装置は、飲料水を、超小型の放射能除去装置によって、飲む飲料水を作る装置が、自動充電電池などの技術で、停電時でも、飲料水を確保出来る装置などが、今後の世界商品として、登録販売する事で国と都道府県市町村区的全額借金返済が可能に成る。

【0098】

図31の、原子炉免振技術は、今後のビル免振技術として、効果は有るが、ゴム免振が、日本国の最初のビル免振技術に成り、不正競争の特許切れの著作権の介入としての模造品に成る為、実用新案登録後、最初のゴム免振特許者に、事業介入の契約を、行ってから始めなければ、不正競争の著作権介入の模造品として訴えられる事に成る為、特許提出と、特許説明に注意しなければなら無い事に成り、ゴム免振は、3階止まり位で有り、テレビマスコミ宣伝しているゴムと鉄の合わせ免振技術は、10階位までが、限度と言えるのは、実際使用して作られているのが、10階前後で有り、ゴムを使用する為、振動の全てを吸収する技術としては、何処まで行ってもゴム使用の為、限界があり、コロ電磁石反発免振は、地下にビルを、延ばして、コロ電磁石反発免振を積載する事によって、超高層ビルとしての免振技術も可能に成り、今後、支える側の装置の改造も視野に入れて考えて行く事で、高層ビルの免振技術として、地位を築いて行く事に成り、一戸建ての様に、揺れが、木材の損傷に成るようなゴム免振より、コロ電磁石反発免振技術の必要性が、木造建築などにも生きて来る。

30

【0099】

図42に、積載使用されている循環型燃料電池発電機は、無害無給油で有り、水素タンクを一切必要としなくて、水素追加給油も必要としない軽水素酸素水を、循環気化させて連続の燃料電池の液体マグネシウムの軽水素酸素水の瞬間気化水蒸気の連続の、液体マグネシウム瞬間吸引の連続の軽水素と酸素の発電方法の為、日本国の政治家が、全員で世界特許の燃料電池の液体マグネシウムの水素と酸素の瞬間吸収発電物質の特許使用料金の契約を、日本国が大企業無しの国営と都道府県市町村経営を行えば、逸早く国と都道府県的全額借金返済は、済むばかりか、国の全額借金返済後と都道府県市町村区的全額借金返済後は、国と都道府県市町村区の介入しない、電気税カードと電池税カードシステムが、日本国と都道府県市町村区の利益として残り、燃料電池循環式発電売電利益は、弱者国民一人一人の財団に成り、一切大企業は、出来なく成り、特許権契約及び実用新案権の所

40

50

有する企業の契約だけが、残るが、燃料電池循環式発電機に關しての水発電機技術以外の燃料電池技術の日本国特許と海外特許者との契約に成り、今回の様な大震災の時は、国が、優先的に、国の復興と都道府県市町村区の復興に努めなければ成らない時なのだが、今後の新聞とテレビマスコミとラジオマスコミの判断と決断と政治家の行動と、国の官庁機関の行動に期待する事で、一日も早い復興を切に祈る者の、最初から、国の全額借金返済活動と都道府県市町村区的全額借金返済活動を目的とした活動

は、増野和夫の公開特許文章を全て読まれる事によって、著作権文書図面の先技術の実用新案権と特許書きを優先的に書ける権利を理解いただけると信じる者で有り、先技術の優先権は、お金の有る者が特許庁提出した特許文書だけが、商品を作る優先権成らば、技術が、優先するので無く、お金が、先優先する日本国ならば、日本国が、世界のトップに成れない先技術の優先権の、お金の有る者を優先する日本の特許法を、改正して、過去に、不平等に利益を得た大学個人及び企業個人の資産公開と所得税法改正と先技術の平等な公開を、新聞業界とテレビマスコミとラジオマスコミに、人権無視出来ない、著作権法の死後50年を、国の全額借金返済目的の著作権は、永遠著作権の無期限著作権として、文部科学省に提言すると同時に、特許庁に完全不正競争の出来ない特許権と特許切れ後も、介入出来ない説明として、国の全額借金返済とは、国の全額借金返済に

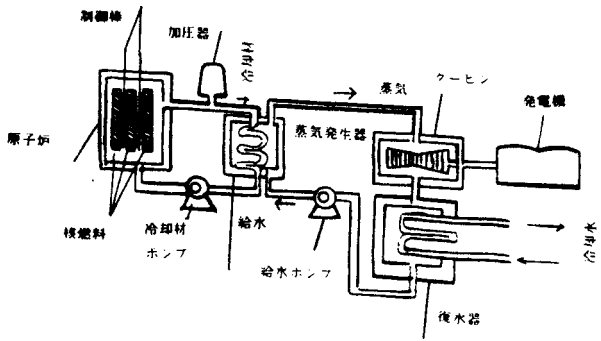
対して、絶対に時効が無い為、国の借金は、永遠に払わなければ成らない事が、事実の為、国の全額借金返済の目的及び都道府県市町村区的全額借金返済事実と弱者国民一人一人の財団設立等の事実説明によって、今後、著作権法の無期限著作権法の特例法案を、国会提出出来る用に成れば、永遠に弱者国民全体の平等に保護されない人全員を、守ってやれる第一歩が、無期限著作権法に成り、既に、国宝は、無期限の著作権物に成り、著作権図面と著作権文章と特許文章と実用新案権登録文章等の、無期限公開権を、国と都道府県市町村区と新聞マスコミとテレビマスコミとラジオマスコミに求めて行く事が、日本国の政治家全員と都道府県市町村区の職員全員が、完全平等資産補償出来ない

弱者国民一人一人を、意味する人々の低所得者を、高額所得者並みに守る為の、対策の為の、増野和夫の知的所有財産の著作権図面と著作権文章全てに成る。

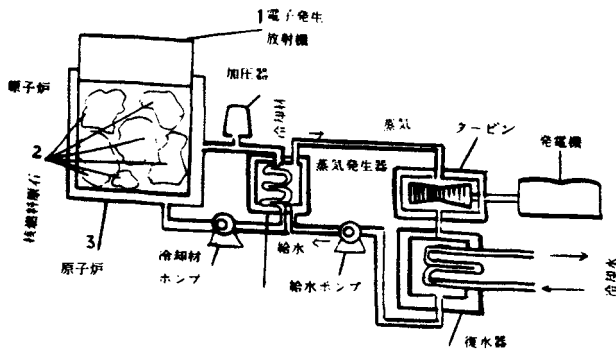
10

20

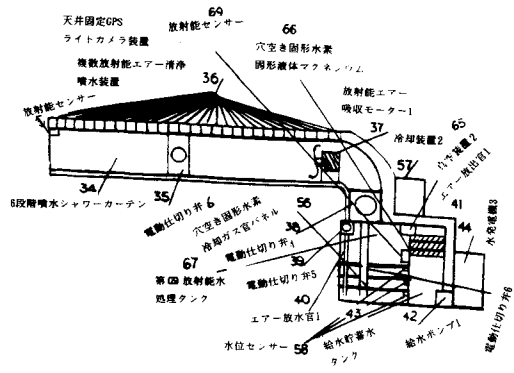
【図 1】



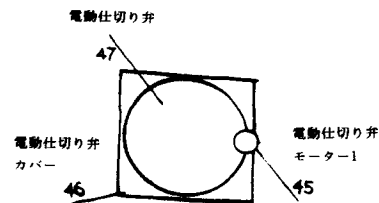
【図 2】



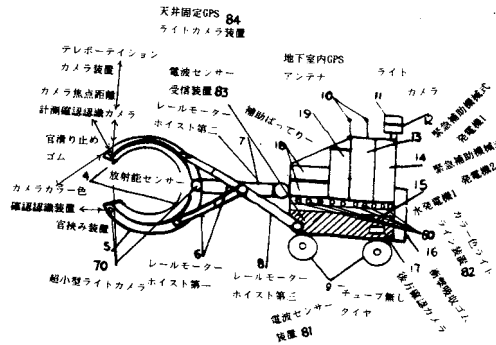
【図 5】



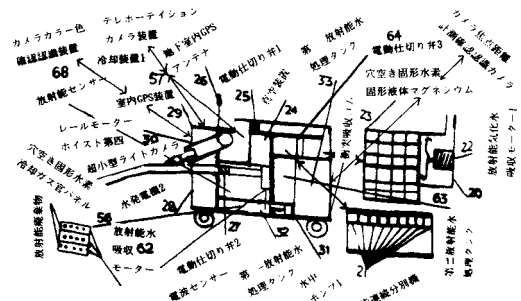
【図 6】



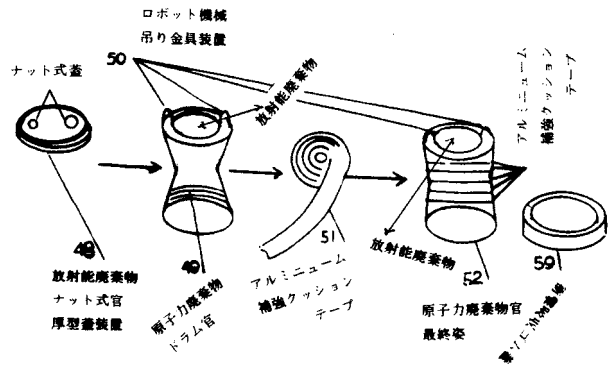
【図 3】



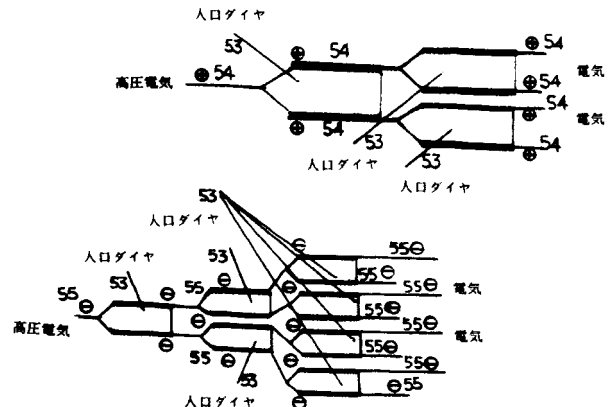
【図 4】



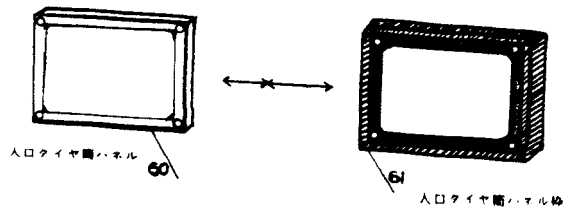
【図 7】



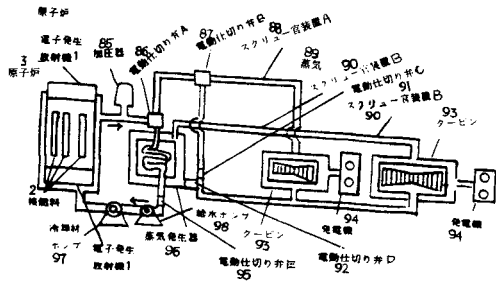
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 13】

(別記第 2 号様式)

広報広聴第 3-37 号
平成 13 年 5 月 日

保

総合企画部政策室長

個別広聴の処理について（依頼）

このことについて、次により処理をお願いします。

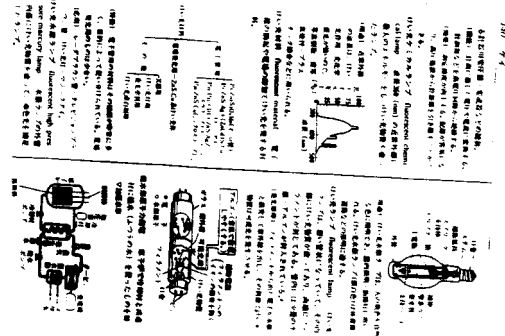
- 1 関係部長等で措置し、その結果を報告するもの（書面、電話、面談による説明、調査等により措置するものを含む。）
- 2 関係部長等に照会し、政策室長等から差（申）出入及び関係者等に回答するもの
- 3 参考回付するもの

なお、1 及び 2 については、別記第 3 号様式により報告をお願いします。

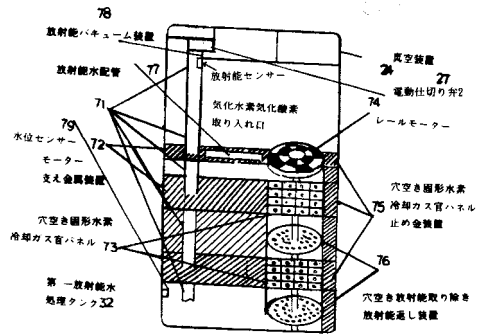
受 理 年月日	平成 13 年 5 月 10 日	関係部	課 室	整理番号 第 3-37 号
差（申）出入 関係者等	美瑛町 増 野 和 夫			
標 題	意図不明			

処理に当たっては、差（申）出入の不利にならないよう秘密保持に十分留意のこと。
（広報広聴室主査（国民の声））

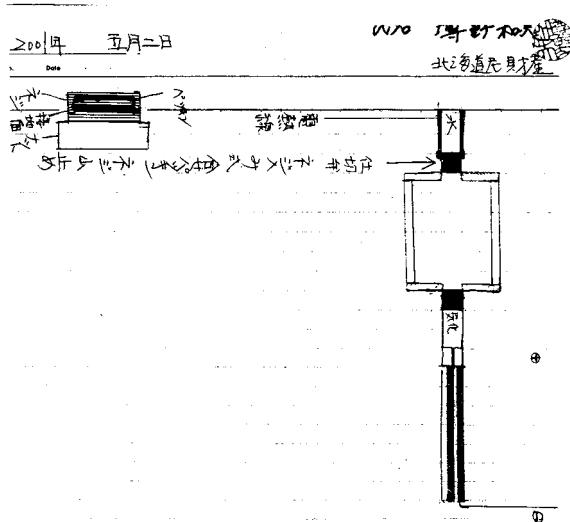
【図 11】



【図 12】



【図 14】



【 図 19 】

2001年 五月七日 北通尾見産
熊子力 排気物 処理に於て

★ 石炭・岩盤の地下にCO₂ 監理出来ない理由
千口対策のため 最後は、埋めて監理

山崎 石炭の岩盤の下
税金の周辺市町村 豊橋 (道民税)

対ロ対策
自衛体ではなく 道独自の警備保障

☆ トンネルの対策

- ① クサビトコシ式で扉の所で狭くする方法も取可
- ② 扉は、金剛鉄製
- ③ 次に地下 50m 下は、エレベーター
- ④ 直進に 50~100 層、進む
- ⑤ エレベーターで 50m 上かり

☆ 始めて貯蔵施設 現地へ たどり着く

フ、ペーミン 糸着く

【 図 2 0 】

(別記第2号様式)

広報広聴第3-183号
平成14年 9月 日

証 拠 書 類
裁 判 用

総合企画部政策室長

個別広聴の処理について（依頼）

このことについて、次により処理をお願いします。

- 1 関係部長等で措置し、その結果を報告するもの（書面、電話、面接による説明、調査等により措置するものを含む。）
- 2 関係部長等に国会し、政策室長等から並（申）出人及び陳情者等に回答するもの
- 3 参考回付するもの

なお、1及び2については、別記第3号様式により報告をお願いします。

受理 年月日	平成14年 9月26日	関係部	課 留 置	療 養 科 第3-1834
差(申)出人 随 情 者 等		樹木清美園市 境野 和夫		
根 拠	北海道民財産			

処理に当たっては、差（申）出人の不利益にならないよう秘密保持に十分留意のこと。

【 図 2 1 】

2002年
9月24日 (火)
AM 9時43分 参赛作品

拓木寺 真陽寺 下高田木
北 海邊民 財生
大 野和久

* ウラン鉱物(原子力ウラン)からエネルギーの電気だけを取り出す方法の発想

☆ 压电素子去使了 (中間電子) (中間電子素子体) 使用了 I 礼式 電取去、取り金方法

★ 電子圧力——正電束子最初は、陽電子と陰電子の電気圧力——だけ加えて臨界へまで電子圧力を加えて臨界に達した時点で中間電子圧力——を使用中電子圧力——を採取する方法の事を言う。

冷却方法
液体与蒸汽直接换热冷却方式

※中間電子系子体に陽電子陰電子を吸収
(捕獲融合)表現の例は好。中間子に陽電子陰電子が
うつく原理に基づいたこの方法を使用する。

※ 水蒸気沸とう型は、原子力排気物が
多く出るので、その処理費用に多額の
税金がかかる欠点と言う問題点をかたえる。

※中間電圧 使用しモ (陽電極電圧) 氷の
臨界温度迄 電子熱で上げて、中間電圧操作で
安定に、取りおける。放射能 排廃物 10.77494g が出る。
2002年9月28日(土) PM 8:00 地方自治体 環境局 検査済。

【 ㄨ 2 2 】

2002年
9月24日(火)
PM1時49分 芝罘作函 林之

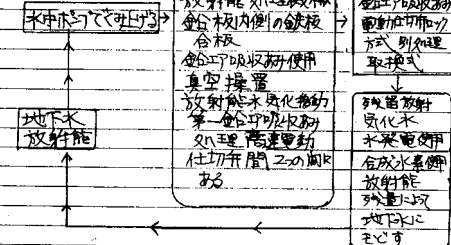
板橋、真則市、下海、木
北、湯、海、財、產
海、野、和、大

※放射能は、水に溶けない、(水の中に残る現象が正しい)

説明 放射能の形は、変わらないのである。

※水の中の放射能だけを、取り除くのは、本業である。

書明



※ この他

放射能水処理に当り、液体へ気化に気化時
金、金銀(自由スカル種の合成)などを入れた
円筒を、円回転で放射能を捕らえ、
ミストも放射能放射能を捕らえ、金、銀、銅、鉛、
電動仕切弁と処理の方法が、見られる

【図 23】

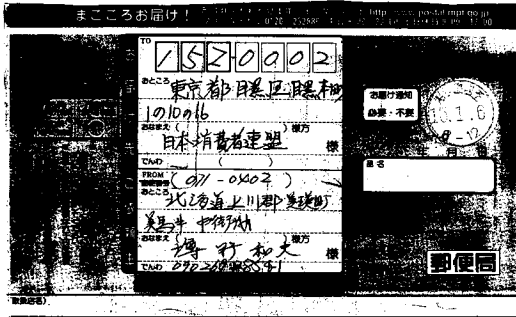
著作権考案文章図面書類受領書

増野和夫が、直筆で書いた年月日入り著作権考案文章図面 北海道民財産の名称入り
 増野和夫の印鑑証明付き 著作権考案文章図面の書いた場所 地名サイン入り
 北海道の全借金返済 日本の地方の全借金返済 日本の国の全借金返済の方法
 として、特許提出文章前の著作権発明文章 図面の著作権考案財産としての証明文章
 及び2001年10月からの著作権発明考案場所 著作権考案発明時間 何時
 何分の時間記入が、書かれて入る著作権考案説明書すなわち増野和夫が、日本の国の
 借金全額返済方法 日本の地方の借金全額返済方法を、書いた著作権考案発明原本
 の複製書類を、郵便物（ゆうパック）で送られた印刷物を、平成 年 月 日
 に受領しました。

平成 年 月 日

住所

氏名



【図 24】

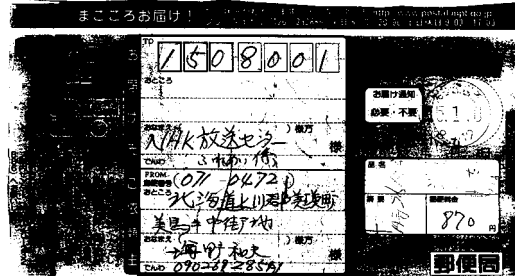
著作権考案文章図面書類受領書

増野和夫が、直筆で書いた年月日入り著作権考案文章図面 北海道民財産の名称入り
 増野和夫の印鑑証明付き 著作権考案文章図面の書いた場所 地名サイン入り
 北海道の全借金返済 日本の地方の全借金返済 日本の国の全借金返済の方法
 として、特許提出文章前の著作権発明文章 図面の著作権考案財産としての証明文章
 及び2001年10月からの著作権発明考案場所 著作権考案発明時間 何時
 何分の時間記入が、書かれて入る著作権考案説明書すなわち増野和夫が、日本の国の
 借金全額返済方法 日本の地方の借金全額返済方法を、書いた著作権考案発明原本
 の複製書類を、郵便物（ゆうパック）で送られた印刷物を、平成 年 月 日
 に受領しました。

平成 年 月 日

住所

氏名



【図 25】

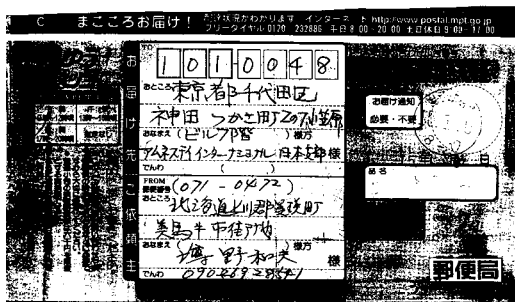
著作権考案文章図面書類受領書

増野和夫が、直筆で書いた年月日入り著作権考案文章図面 北海道民財産の名称入り
 増野和夫の印鑑証明付き 著作権考案文章図面の書いた場所 地名サイン入り
 北海道の全借金返済 日本の地方の全借金返済 日本の国の全借金返済の方法
 として、特許提出文章前の著作権発明文章 図面の著作権考案財産としての証明文章
 及び2001年10月からの著作権発明考案場所 著作権考案発明時間 何時
 何分の時間記入が、書かれて入る著作権考案説明書すなわち増野和夫が、日本の国の
 借金全額返済方法 日本の地方の借金全額返済方法を、書いた著作権考案発明原本
 の複製書類を、郵便物（ゆうパック）で送られた印刷物を、平成 年 月 日
 に受領しました。

平成 年 月 日

住所

氏名



【図 26】

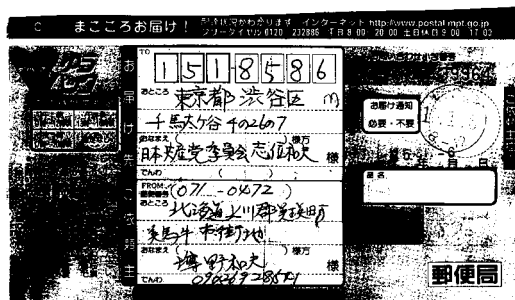
著作権考案文章図面書類受領書

増野和夫が、直筆で書いた年月日入り著作権考案文章図面 北海道民財産の名称入り
 増野和夫の印鑑証明付き 著作権考案文章図面の書いた場所 地名サイン入り
 北海道の全借金返済 日本の地方の全借金返済 日本の国の全借金返済の方法
 として、特許提出文章前の著作権発明文章 図面の著作権考案財産としての証明文章
 及び2001年10月からの著作権発明考案場所 著作権考案発明時間 何時
 何分の時間記入が、書かれて入る著作権考案説明書すなわち増野和夫が、日本の国の
 借金全額返済方法 日本の地方の借金全額返済方法を、書いた著作権考案発明原本
 の複製書類を、郵便物（ゆうパック）で送られた印刷物を、平成 年 月 日
 に受領しました。

平成 年 月 日

住所

氏名



【図 27】

著作権考案文章図面書類受領書

増野和夫が、直筆で書いた年月日入り著作権考案文章図面 北海道民財産の名称入り
 増野和夫の印鑑証明付き 著作権考案文章図面の書いた場所 地名サイン入り
 北海道の全借金返済 日本の地方の全借金返済 日本の国の全借金返済の方法
 として、特許提出文章前の著作権発明文 図面の著作権考案財産としての証明文章
 及び2001年10月からの著作権発明考案場所 著作権考案発明時間 何時
 何分の時間記入が、書かれて入る著作権考案説明書すなわち増野和夫が、日本の国の
 借金全額返済方法 日本の地方の借金全額返済方法を、書いた著作権考案発明原本
 の複数書類を、郵便物（ゆうパック）で送られた印刷物を、平成 年 月 日
 に受領しました。

平成 年 月 日

住所

氏名

書留郵便物受領証				
引受番号	郵便料	中継郵便 費 戻金	受取人の氏名	摘要
91-11-8085-5	1520		社名宛本邦 工井 富子	書留郵便物
(送出人の住所氏名) 北海道ニッポロ郡美幌市街地 増野和夫 様				
この受領証は、指定郵便物の送り主と受取人の間の証明。 本書をもち、左記の郵便局へ提出してください。 郵便局の指定郵便物 5 円以上 10 円未満 10 円以上 10 円未満				

【図 28】

著作権考案文章図面書類受領書

増野和夫が、直筆で書いた年月日入り著作権考案文章図面 北海道民財産の名称入り
 増野和夫の印鑑証明付き 著作権考案文章図面の書いた場所 地名サイン入り
 北海道の全借金返済 日本の地方の全借金返済 日本の国の全借金返済の方法
 として、特許提出文章前の著作権発明文 図面の著作権考案財産としての証明文章
 及び2001年10月からの著作権発明考案場所 著作権考案発明時間 何時
 何分の時間記入が、書かれて入る著作権考案説明書すなわち増野和夫が、日本の国の
 借金全額返済方法 日本の地方の借金全額返済方法を、書いた著作権考案発明原本
 の複数書類を、郵便物（ゆうパック）で送られた印刷物を、平成 年 月 日
 に受領しました。

平成 年 月 日

住所

氏名

まごころお届け！

1006014

東京都中央区

永田町10101 民衆会館

民衆会館

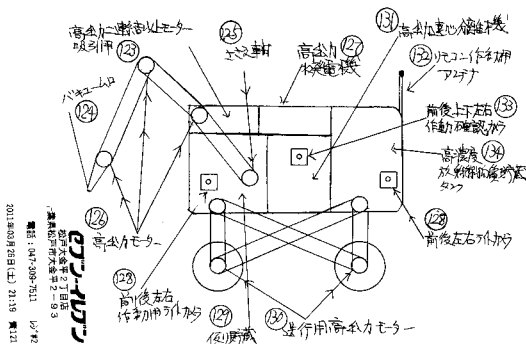
FROM 071100012

北海道ニッポロ郡美幌市街地

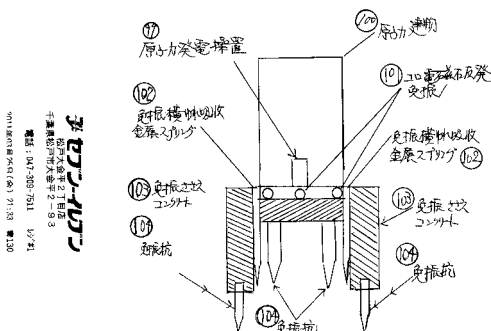
増野和夫

郵便局へお電話ください。

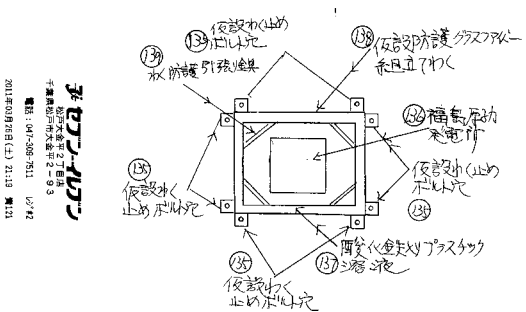
【図 29】



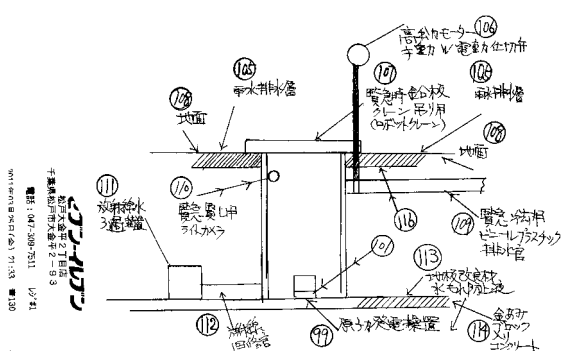
【図 31】



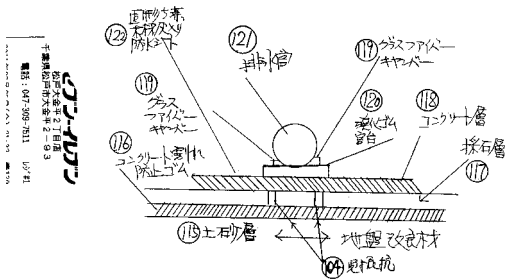
【図 30】



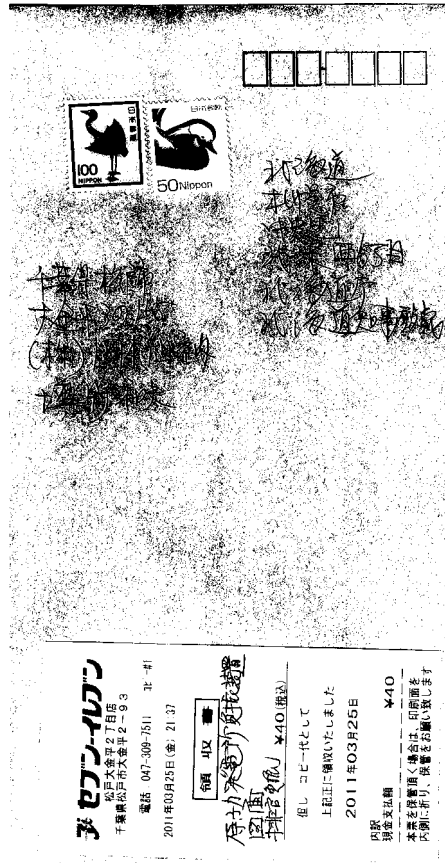
【図 32】



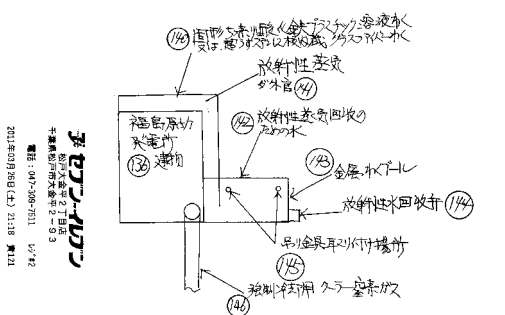
【図 3 3】



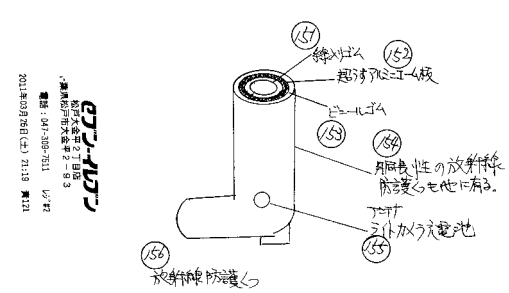
【図 3 4】



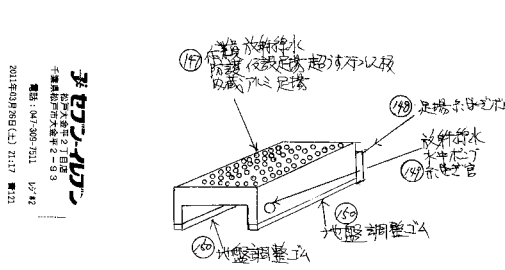
【図 3 5】



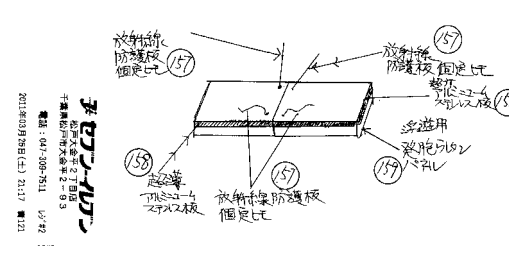
【図 3 7】



【図 3 6】



【図 3 8】



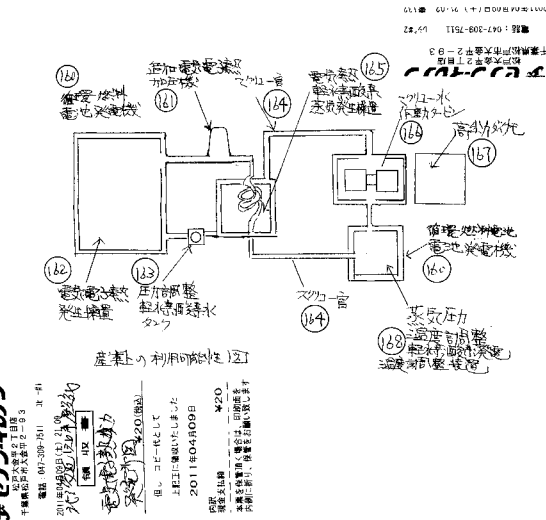
[illegible]

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-10-1
 日本橋本町1丁目6番1号
 千代田松戸市大倉町2-9-3
 電話 03-309-7511 北 41
 2011年03月27日 北 21 27
 領収 収書

[illegible][illegible]

福岡県厚狭町で発生した事故の調査報告書に、電化設備の点検用電圧計の誤差を説明する図が添付されている。この図は、電圧計の針が正確な位置に指すように調整するための手順を示している。図には、電圧計の針の位置と、電圧計の表示値（例えば、100V、200V）が示されている。また、電圧計の針の位置と、電圧計の表示値の差を調整するための手順が示されている。この図は、電圧計の誤差を説明するための重要な資料である。

【 図 4 3 】

[illegible]

オセロ・インカニ
（株）オセロ・インカニ
〒千歳市大倉第2-2-93
電話 047-309-7511 主・計
2011年04月09日(土) 21:14

領収書

お金の日の付
は、アポロエー・ナ
けでる。 ¥10(税込)

領し コピー代として
上記正に領収いたしました
2011年04月09日

内訳
現金 ¥10

本館へ送られた「雑誌」を、
本館へ送り、「読者プレゼント」の
権利を得た。この権利は、
本館へ送られた「雑誌」の発行元である。

国と地方の全読者会と本の読み手
の意見が一致して、読者の説明会

フロントページの続き

- (54)【発明の名称】電子熱核燃料原石核融合発電と放射能廃棄物処理方法。コメント2008年6月19日(木)PM14時17分34秒薄曇りのまま美馬牛市街地先程は見かけぬ客人の鳥が来ていた明日給料日カンキチ原子力処理装置先知的所有財産書き急ぐ事する。